

三重県観光振興基本計画年次報告書
(平成25年度施策実施状況)

平成26年9月

三 重 県

は じ め に

三重県では、観光振興の取組を着実に進め、観光産業を本県経済の牽引産業として大きく育てていくため、平成23年10月にみえの観光振興に関する条例を制定し、同条例に基づき、平成24年3月に三重県観光振興基本計画（平成24年度～27年度）を策定しました。

また、平成24年度からおおむね10年先を見据えた県の戦略計画である「みえ県民力ビジョン」では、観光振興について「観光産業の振興」と「国際戦略の展開」の2つの施策と「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」に位置づけています。また、その着実な推進を図るため、平成24年度から4年間の取組を「みえ県民力ビジョン・行動計画」として策定したところです。

平成25年度は、10月に伊勢神宮（内宮及び外宮）で「遷御の儀」が行われ20年に一度の神宮式年遷宮がクライマックスを迎えました。このため、伊勢神宮への年間の参拝者数は1,420万人となり、過去最高を大きく上回りました。

三重県では、これを好機として、県、関係行政機関、事業者、観光関係団体、経済団体等が連携し、官民一体となったオール三重で展開する「三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～」を、平成25年4月にスタートさせました。

キャンペーンでは、首都圏などの大都市をはじめ、国内外に積極的に県内各地の魅力をPRするとともに、周遊性や滞在性の向上を図り、満足度を高めることで「三重県観光の共感者」を増加させ、遷宮後も続く三重ファンやリピーターの獲得をめざして各種の取組を実施しました。

また、9月には東京日本橋に首都圏営業拠点「三重テラス」をオープンさせ、県内への観光誘客や県産品の販路拡大につなげるため、さまざまな営業活動を展開しました。

さらに、平成25年5月に志摩市で開催された日台観光サミットをめぐる一連の取組を一過性のものとしないう、継続的な誘客に取り組むとともに、「昇龍道プロジェクト」と連携するなど、インバウンドの推進にも取り組みました。

今回、作成した年次報告書は、みえの観光振興に関する条例にもとづき、年1回、三重県観光振興基本計画に基づく観光施策の実施状況について公表するものです。

この報告によって、県民の皆さんをはじめ、各種団体や事業者のみなさん、市町等が三重県の観光施策について理解と関心を高めていただき、県とともに観光振興のための取組を推進されることを期待します。

目 次

1	平成26年版成果レポート	1
	施策3.4.2 観光産業の振興	2
	施策3.4.3 国際戦略の推進	7
	新しい豊かさ協創プロジェクト4 世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト	13
2	三重県観光振興基本計画の概要	20
	三重県観光振興基本計画の目標項目	22
	三重県観光振興基本計画の目標達成状況	23
3	三重県の観光施策の体系	24
4	平成25年度観光施策の取組状況	26
	1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	
	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	26
	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	30
	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	33
	2 三重県の特性を生かした海外誘客	
	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	33
	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	36
	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	37
	3 観光産業の高付加価値化	
	(1) 観光産業の育成・振興	38
	(2) 観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応	40
	(3) 観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり	44
	4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	
	(1) 観光地づくりを担う人材の育成（「おもてなし」の向上）	46
	(2) 県民の観光行動の促進	49
	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	51
	5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	
	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	55
	(2) 人にやさしい観光地づくり	57
	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	59
	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	61

5 推進体制の整備	63
(1) 計画の推進体制.....	63
(2) 観光統計の整備.....	63
(3) 計画の進行管理.....	63
参考資料	65
○ 三重県観光審議会の審議状況.....	66
○ 三重県観光の現状（平成25年）	
・ 1 観光レクリエーション入込客数の推移.....	67
・ 2 地域別観光入込客数の伸び率の推移.....	68
・ 3 神宮参拝者数累計.....	69
・ 4 外国人宿泊者数.....	70
・ 5 男女構成割合.....	71
・ 6 年齢構成割合.....	72
・ 7 居住地構成割合.....	73
・ 7-2 地域別居住地構成割合.....	74
・ 8 滞在種別構成割合（宿泊・日帰りの別）.....	75
・ 9 同行者構成割合.....	76
・ 10 平均滞在時間（日帰り）.....	77
・ 11 平均宿泊日数.....	78
・ 12 旅行目的.....	79
・ 12-2 滞在種別旅行目的.....	80
・ 13 来訪回数.....	81
・ 14 交通手段（三重県まで）.....	82
・ 15 一人あたり観光消費額（宿泊）.....	83
・ 16 一人あたり観光消費額（日帰り）.....	84
・ 17 総合満足度.....	85
・ 17-2 地域別総合満足度（評価点）.....	86
・ 17-3 居住地別総合満足度（評価点）.....	87
・ 18 地域別の状況.....	88
○ 用語の説明.....	89
○ みえの観光振興に関する条例.....	93

1 平成26年版成果レポート

(みえ県民カビジョンによる観光施策)

三重県の長期戦略である「みえ県民カビジョン」や中期戦略「みえ県民カビジョン・行動計画」では、観光関係の取組として、2つの施策と1つの選択・集中プログラムを掲げています。

施策等	施策等の目標	主な取組内容	県の活動指標
342 観光産業 の振興	観光消費額の伸び率	基本事業34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略	観光レクリエーション 入込客数
		基本事業34202 三重県を訪れる海外誘客戦略	県内の外国人延べ宿泊者数
		基本事業34203 来訪を促進する観光の基盤づくり	リピート意向率
343 国際戦略 の推進	海外自治体等との連携により新たに創出された事業数(累計)	基本事業34303 海外自治体等と連携した誘客戦略の推進	観光における海外自治体等との連携事業数(累計)
協創4 世界の呼びとを呼び込む観光協創プロジェクト	観光レクリエーション入込客数	実践取組1 式年遷宮を生かした国内誘客戦略の推進	延べ宿泊者数
		実践取組2 観光PRの強化を通じた海外誘客戦略の推進	リピート意向率
		実践取組3 観光産業の基盤の強化	県内の外国人延べ宿泊者数
			海外の自治体等との連携事業数(累計)
		受講生が取り組んだ地域活動数(累計)	

(成果レポート)

成果レポートとは、みえ県民カビジョンに定める56の施策と、特に注力すべき政策課題である16の選択・集中プログラム単位ごとに、前年度の県政の取組について評価を行い、その結果を翌年度における取組に生かすものです。

県民の皆さんとめざす姿

県民の皆さん、市町、観光事業者および観光関係団体等との連携により、観光振興の取組が進み、国内外からの誘客が促進されるとともに、県内地域において魅力ある観光地が形成され、観光産業が本県の経済をけん引する産業の一つとして確立され、持続的に発展しています。

平成 27 年度末での到達目標

式年遷宮*により全国から本県に注目が集まる絶好の機会を生かした国内外に対する観光宣伝活動の強化、県内での周遊性・滞在性の向上、観光人材の育成等、観光産業の基盤強化を進めるなどの取組が展開され、本県の認知度が高まり来訪者が増加し、観光産業の活性化が図られています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	B (ある程度進んだ)	判断理由	県民指標については、目標を達成できませんでしたが、90%を超える実績となっており、活動指標についても、3項目中2項目で達成していることから、「ある程度進んだ」と判断しました。
----------	----------------	------	---

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標						
目標項目	23 年度	24 年度	25 年度		26 年度	27 年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
観光消費額の伸び率	—	116	127	0.94	127	127
	100	101	119			
目標項目の説明と平成 26 年度目標値の考え方						
目標項目の説明	観光旅行者が県内において支出した観光消費額（交通費、宿泊費、土産品費、その他の費用）の平成 23 年を 100 とした場合の伸び率					
26 年度目標値の考え方	平成 25 年に最終目標値を前倒しし、高い水準での維持を図っていくこととします。					

活動指標							
基本事業	目標項目	23 年度	24 年度	25 年度		26 年度	27 年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略（雇用経済部 観光・国際局）	観光レクリエーション入込客数		3,650 万人	4,000 万人	1.00	4,000 万人	4,000 万人
		3,565 万人	3,787 万人	4,080 万人			

基本事業	目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
34202 三重県を訪れる海外誘客戦略（雇用経済部観光・国際局）	県内の外国人延べ宿泊者数		100,000 人	120,000 人	1.00	135,000 人	150,000 人
		90,990 人	94,660 人	130,890 人			
34203 来訪を促進する観光の基盤づくり（雇用経済部観光・国際局）	リピート意向率		82.0%	88.0%	0.96	94.0%	100.0%
		77.8%	83.9%	84.5%			

（単位：百万円）

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
予算額等	914	2,329	721	581	
概算人件費		243	257		
（配置人員）		（27 人）	（28 人）		

平成 25 年度の取組概要

- ①式年遷宮や世界遺産登録 10 周年などの好機を捉え、三重の認知度向上、周遊性・滞在性の向上、おもてなしの向上をめざす官民一体となった三重県観光キャンペーンを実施
三重県観光キャンペーンの核となる、「みえ旅パスポート」（発給数：205,976 件）、「みえ旅案内所」（68 施設⇒87 施設）、「みえ旅おもてなし施設」（640 施設⇒820 施設）の構築を行うとともに、地域部会の活用やテーマ性・ストーリー性を持った情報発信、SNS*を利用した三重の観光情報発信の強化により、キャンペーン終了後も持続する魅力的な観光地づくりを推進
- ②「遷宮」や「古事記」など共通テーマを持つ他県や東大和西三重観光連盟、西美濃北伊勢観光サミットなど近隣地域との県境を越えた地域間連携により効果的な情報発信を推進
- ③「2013 日台観光サミット in 三重」の開催を契機として、継続的に台湾からの誘客促進を図るとともに、国際戦略の指針を策定し、「選択と集中」によりターゲットを明確にした海外誘客戦略を展開
- ④「昇龍道プロジェクト」など広域連携によるスケールメリットを活かした海外誘客を推進
- ⑤外国人が多く訪れる県内観光地を対象に、外国人観光客受入環境の整備を促進
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」を積極的に活用し、国内外への情報発信及び誘客を促進
- ⑦ロケツーリズムやエコツーリズム、スポーツツーリズム*、産業観光など地域資源を生かしたニューツーリズムを支援
- ⑧バリアフリー観光に先進的に取組む特定非営利法人伊勢志摩バリアフリースターセンター等との連携により、日本一のバリアフリー観光県づくりを推進
- ⑨観光事業者等を対象とした観光面での防災対策の啓発と三重県新地震・津波対策行動計画における観光防災に関する取組のとりまとめ
- ⑩産学官の連携による「ICT*を活用した産業活性化協議会」の観光分野での検討の実施

平成 25 年度の成果と残された課題（評価結果）

- ①観光キャンペーンでは、官民連携して「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」の充実を図りました。観光客実態調査において、主要観光地への立寄地点数が県内すべての地域で上昇（北勢：1.13→1.32、中南勢：1.20→1.45、伊勢志摩：2.78→3.20、伊賀：1.48→1.49、東紀州：1.96→2.10）していることから周遊性が向上したと思われる。これらの結果を踏まえ、今後とも効果的な情報発信や誘客促進につなげていく必要があります。
- また、県内全市町に5つの地域部会の参画を得て、県内各地の地域の魅力発見や情報発信、地域連携事業の実施など、地域と一体となった取組を進めました。
- 情報発信については、オフィシャルガイドブック（発行30万部）やエリアパンフレットを半年ごとにテーマを更新して発行し、県内各地の旬の情報やキャンペーン企画の情報を提供しています。また、オフィシャルホームページを11月にはスマートフォン対応にするとともに、観光連盟と連携して、フェイスブックやツイッター、LINEを利用した観光情報発信に取り組みました。
- 首都圏等大都市圏においては、三重テラス*、名古屋桜通りカフェや雑誌媒体を活用した女性、シニア等に狙いを絞った情報発信やメディア等を対象にした企画提案、情報発信を行うとともに、地方では、百貨店の物産展などでPRを行いました。（メディア掲載件数159回　うち新聞115回、雑誌25回、TV19回）
- 民間事業者等との連携では、75社を超える企業等に協力いただき、商品開発、ロゴマークの活用、ポスターの掲出など、官民が一体となった三重県の認知度向上に取り組みました。また、県ゆかりの著名人8人を新たに「みえの国観光大使」に任命し、イベントやメディアを通じて、三重県のPRを行いました。
- 引き続き、地域部会や民間企業等と連携した取組を実施することで、官民が一体となった継続的な観光誘客や周遊性、滞在性の向上を進めていく必要があります。
- ②「遷宮」や「古事記」などの共通テーマを持つ他県と連携し情報発信を行いました。これらの取組により、日経トレンドの2013ヒット商品ベスト30の5位に「伊勢・出雲」が選ばれるなど、全国的に認知度が向上しました。また、東大和西三重観光連盟や西美濃北伊勢観光サミットなど近隣地域が県境を越えて情報発信することで、誘客の促進や周遊性の向上に努めました。今後とも、共通テーマを持つ他県や近隣地域との県境を越えた広域連携により、効果的な情報発信を行い、認知度を高めていく必要があります。
- ③「2013日台観光サミット in 三重」を契機に、継続的な誘客促進を図るため、サミット終了直後に台湾にミッション団を派遣し、台北、台中、高雄で説明会や商談会を開催するとともに、三重県に協力的な旅行会社による「三重県観光アドバイザー会議」を開催するなど、台湾との取組を集中的に実施しました。その結果、三重区のある台湾新北市との観光交流協定締結（10月）、天灯祭における新北市との交流、台湾ランタン祭への出展など日台双方の観光文化交流促進が評価され、2月には台湾交通部観光局から「2014台湾観光貢献賞」を受賞しました。これら取組の結果、平成25年の台湾から三重県への延べ宿泊者数は27,360人（暫定値）となり、目標としていた25,000人を上回り過去最高を記録しました。また、海外から三重県への誘客を促進するために「三重県海外観光特使」制度を創設し、平成26年3月に、マレーシアからの誘客を進めるため、マレーシアの旅行会社のトップに初めて委嘱しました。国際戦略の指針となる「みえ国際展開の基本方針」*を平成25年9月に策定したことから、今後とも海外誘客については、同方針に基づき、ターゲットとする国・地域を絞り込んで展開していく必要があります。

- ④海外でのPRについては、「昇龍道プロジェクト」など広域連携による取組を中部運輸局や中部広域観光推進協議会と一体となって進めていく必要があります。
- ⑤外国人観光客の受入環境の向上を図るため、外国人観光客が訪れるみえ旅案内所等に指さし案内や、Wi-Fi整備（平成25年度までに73ヵ所整備）を行いました。今後とも、引き続き、整備を進めていく必要があります。
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」については、海外のプレスを招いてプレスツアー開催など、地域が中心となった協議会が実施するイベントや情報発信等への支援が必要です。平成26年度は、全国海女サミットが志摩市で予定されており、サミット成功に向けて地域と連携していく必要があります。
- ⑦JFC（ジャパンフィルムコミッション）の総会を9月に伊勢市に誘致し開催しました。また、県内9つのフィルムコミッションにおいて、映画やドラマ、CM等、年間200件を越える取材協力や撮影支援を行うとともに、テーマを絞ったロケ地巡り用の冊子「映画旅文学旅みえ」の作成や今年5月公開の映画「WOODJOB」の全国公開に併せて、ロケ地マップを作成しました。今後、映画配給会社とタイアップしたPRなど、関係市町と連携しロケツーリズムを推進する必要があります。また、周年事業や県内各地域の取組等と連携しながらエコツーリズムやスポーツツーリズムを推進するなど地域資源を生かしたニューツーリズムが地域に定着するよう、取組を進める必要があります。
- ⑧6月の「バリアフリー観光全国フォーラム伊勢大会」において、「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」を行い、研修会や高齢者、障がい者を対象としたモニターツアーを実施しました。今後、県内全域でバリアフリー観光を推進することを通じて、おもてなしの向上にもつなげていく必要があります。
- ⑨観光事業者を対象とした観光地の防災に関する啓発活動を2回実施するとともに、三重県新地震・津波対策行動計画に基づき、観光地の防災対策を進めていく必要があります。
- ⑩「みえICTを活用した産業活性化推進協議会」に観光ワーキンググループを設置し検討を始めました。

平成26年度の改善のポイントと取組方向

【雇用経済部 観光・国際局 次長 岩田 賢 電話：059-224-2077】

- ①式年遷宮「おかげ年」の機運を持続させるとともに、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年等の好機を最大限活用し、引き続き、みえ旅パスポートの発給促進、みえ旅案内所、みえ旅おもてなし施設の充実を図るとともに、地域部会や民間事業者等幅広い主体と連携した取組を進めることで、官民一体となった誘客促進を図ります。三重テラスを活用した首都圏等での情報発信、みえ旅パスポート八十八ヵ所めぐりスタンプ帳の配布、全国規模の観光展である「ツーリズムEXPO2014」への出展、熊野古道世界遺産登録10周年を記念したドライブプランの実施、おもてなし施設ガイドマップの作成、旅行商品造成の働きかけ等展開することで、本県への誘客促進、来訪者の周遊性・滞在性の向上に取り組みます。
- ②別宮の遷宮、古事記、歴史街道などテーマやストーリーづくりを重視し、神話や古事記等を通じて共通の話題を有する島根県、奈良県、和歌山県等との連携や県境を越えた連携を強化し、旅こころをひきつける、テーマ性、ストーリー性を有した情報発信を実施し、誘客の促進と周遊性の向上を図ります。
- ③「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾、タイ、マレーシア、香港、フランスについて、集中的なセールスや「三重県海外観光特使」の委嘱等により、効果的、重点的にプロモーションを

実施します。台湾については、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強化し、台湾全域からの誘客を促進します。

- ④観光誘客のみならず、産業や物産と一体となり三重県の魅力を総合的にPRし、ビジネス客も含めた海外来県者全体の増加を目指します。また、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を進め、中部地域全体での知名度向上を行います。
- ⑤W i - F i、案内表示等の外国人観光客の受入環境整備について、みえ旅案内所等への整備を促進します。
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」について、引き続き、地域の協議会での取組みを支援することで、地域全体の連携を促し国内外への発信を強化します。
- ⑦ロケ地マップやテーマを絞った冊子、周年事業等を活用し、ロケツーリズム、スポーツツーリズム、エコツーリズムなどの地域資源を生かしたニューツーリズムの取組について、情報発信を中心に連携して取り組みます。
- ⑧障がい者、高齢者など移動に困難を伴う方に、県内のバリアフリー観光情報を発信するとともに、受け入れ側の情報提供機能や相談機能を高めることで、地域におけるコンシェルジュ機能を充実します。
- ⑨三重県新地震・津波対策行動計画にもとづき、防災対策部と連携して観光防災にかかる人材育成、課題検討の場づくり、避難訓練の実施などに取り組みます。
- ⑩I C Tについては、産学官連携による観光ワーキンググループにおいて、引き続き、観光客の利便性向上や観光産業の振興につながる実証事業の実施に向けた取組を進めます。

* 「○」の着いた項目は、平成26年度に特に注力するポイントを示しています。

施策 3 4 3

国際戦略の推進

【主担当部局：雇用経済部 観光・国際局】

県民の皆さんとめざす姿

姉妹・友好提携先に加えて、欧米やアジアなど、今後結びつきを強める必要のある地域を設定し、産業や観光、文化などのさまざまな分野で横断的に取り組むことにより、世界から優れた企業、人材の呼び込みや県内企業の海外展開が進み、地域に新たな活力と価値が創造されています。

平成 27 年度末での到達目標

国際社会のグローバル化に対応するため、姉妹・友好提携先や各国の駐日大使館等との連携を強化するとともに、新たな国際ネットワークを構築し、海外に向けて県の持つ高い技術や観光資源等の魅力を発信することにより、海外自治体等との連携が進み、文化、経済的交流が活性化しています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	A (進んだ)	判断理由	県民指標並びに活動指標については、全て目標値を達成したことから「進んだ」と判断しました。
----------	------------	------	--

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標						
目標項目	23 年度	24 年度	25 年度		26 年度	27 年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
海外自治体等との連携により新たに創出された事業数(累計)		5 件	20 件	1.00	(達成済)	20 件
	—	15 件	31 件			
目標項目の説明と平成 26 年度目標値の考え方						
目標項目の説明	海外の自治体や駐日大使館等との連携から、新たに生まれた、産業や観光、文化関連の事業数					
26 年度目標値の考え方	目標値については、既に達成していますが、取組内容の充実を図ります。					

活動指標							
基本事業	目標項目	23 年度	24 年度	25 年度		26 年度	27 年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
34301 国際交流・貢献活動のネットワーク化の推進(雇用経済部観光・国際局)	みえ国際協力大使数(累計)		140 人	160 人	1.00	180 人	200 人
		125 人	142 人	163 人			

基本事業	目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
34302 企業活動を支える国際的なネットワークづくりの推進（雇用経済部観光・国際局）	新たに連携構築を行った国際的なネットワークの数（累計）		1件	2件	1.00	4件	6件
		—	1件	3件			
34303 海外自治体等と連携した誘客戦略の展開（雇用経済部観光・国際局）	観光における海外自治体等との連携事業数（累計）		2件	5件	1.00	（達成済）	10件
		—	3件	10件			

（単位：百万円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	78	90	106	92	
概算人件費		144	120		
（配置人員）		（16人）	（13人）		

平成25年度の取組概要

- ① 県の強みを発揮できる分野及び国・地域に対して、限られた資源の中で、重点的かつ集中的に国際展開を行うために、三重県が取り組むべき方向性を定めた「みえ国際展開に関する基本方針」*を策定
- ② 「2013 日台観光サミット in 三重」の開催を通じ、台湾における観光PR、誘客活動を強化、産業面においても産業連携に関する覚書（MOU）に基づき連携を推進
- ③ 三重県海外ビジネスサポートデスク（中国及びアセアン）を活用した、セミナー開催等による海外展開に関する情報提供、個別相談会等での相談対応及び海外現地における商談機会を提供
- ④ ブラジルミッション団を構成してサンパウロ州を訪問し、県内各界が連携して三重県の総合的なプロモーションなど友好交流から経済交流への取組を実施
- ⑤ 国際競争力のある外資系企業の誘致に向け、外国商工会議所やグレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会（GNI）*等の関係機関への参加や、大使館など在外外国公館や関係機関等とのネットワークを活用したなかでの、外資系企業の動向に関する情報交換を実施また、欧米等先進国の技術力の高い企業をターゲットとした海外ミッションの実施や、外資系企業を対象とした投資促進セミナー開催による県内操業環境情報を発信
- ⑥ 「昇龍道プロジェクト」など広域連携による取組を中部運輸局、中部広域観光推進協議会と一体となって推進
- ⑦ 台湾、タイやマレーシアなど東南アジアへの知事をトップとする海外ミッション派遣や観光展出展を推進
- ⑧ 県内在住外国人、在外外国人、大学生等を活用して外国人の視点で三重県の観光情報をSNS*等で発信
- ⑨ 公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）との連携については、県内環境関連企業等の技術・製品等の海外展開を図るため、マレーシアへの環境関連企業の展開可能性調査や、アセアンビジネスサポートデスクがICETTと連携協力して、ビジネスマッチングを実施
- ⑩ 東京、名古屋、大阪など在外公館等との人的ネットワークの強化を継続

- ⑪台湾高級スーパー等での三重県物産展開催、南紀みかんを核としたタイ高級スーパーでの三重県物産展開催

平成 25 年度の成果と残された課題（評価結果）

- ①平成 25 年 9 月、海外展開の取組をさらに促進し、三重県の強みを発揮できる分野及び国・地域に対し、限られた資源の中で、重点的かつ集中的に国際展開を行うため、三重県が取り組むべき方向性を定めた「みえ国際展開に関する基本方針」を策定しました。今後は、同方針に基づき、県内企業の海外展開、海外誘客活動、外資系企業誘致、農林水産物の輸出促進等の国際関連施策を産学官で、一体的、効率的に展開できるよう、関係機関との情報共有や意見交換を進めていく必要があります。
- ②台湾関係（観光）については、志摩市にて「2013 日台観光サミット in 三重」（平成 25 年 5 月 30 日～6 月 2 日）を開催、2016 年までに日台相互交流人口 400 万人をめざす「日台観光サミット三重宣言」が合意されました。サミット終了後直ちに、台湾へミッション派遣を行い、観光説明会を行うとともに、三重県に協力的な旅行会社による三重県観光アドバイザー会議を開催しました。また、三重区のある新北市との観光交流協定締結（10 月）、新北市天灯祭（2 月）へのブース出展、ランタンフェスティバル（2 月）への出展などを通じて、観光文化交流促進の実績が評価され、台湾交通部観光局から「2014 台湾観光貢献賞」を受賞しました。これら取組の結果、平成 25 年の台湾から三重県への延べ宿泊者数は 27,360 人（暫定値）となり、目標としていた 25,000 人を上回り過去最高を記録しました。今後とも、これらの取組を一過性のものとしなため、関係事業者等との連携を強化する必要があります。
- ③台湾関係（産業）については、台日産業連携推進オフィス（T J P O）との産業連携に関する覚書（MOU）を具体的に進めるため、三重大学地域戦略センターと台湾政府経済部の外郭団体である財団法人資訊工業策進会との間で産業連携に関する覚書（MOU）を締結するとともに、「第 11 回リーディング産業展みえ」（11 月）に T J P O が出展するなど交流を図りました。今後、これらのネットワークを活かし、層の厚い取組を行っていく必要があります。
- ④三重県海外ビジネスサポートデスクについて、県内中小企業における中国、アセアンへの事業展開を支援するためのワンストップ窓口として効果的な現地サポートを実施してきました。今後は、サポートデスクだけでは対応することが困難な専門的課題に対しては、「中小企業等の海外展開支援に係る業務協力に関する覚書」を締結したジェットロ等と連携して県内企業の課題解決支援に取り組む必要があります。特に、中国デスクにおいては、税制面や商標の問題など進出企業に対するきめ細かな支援を行う必要があります。アセアンデスクにおいては、タイ以外の周辺諸国におけるサポート機能を充実していく必要があります。
- ⑤8 月に実施したブラジルミッションにおいて、大学を含む行政団、経済団、民間団の 3 団からなる「オール三重」でサンパウロ州を訪問し、県内各界が連携して三重県の総合的なプロモーションを実施し、「教育」「環境」「産業と商業」「観光」の 4 つの分野で相互連携して両県州が発展していくために「姉妹提携 40 周年記念共同宣言」（署名）を行いました。今後、これらの産学官のネットワークを活用し、具体的な経済交流につなげる必要があります。
- ⑥わが国とブラジルの短期滞在査証の免除措置要望につき、帰国後、知事から外務大臣等へ査証免除の提言書提出、全国知事会等での提言採択を行いました。今後も引き続き提言の実現に向けて働きかけを行っていく必要があります。また、ブラジル三重県人会一行 39 名の来県（10 月）に合わせ、ブラジル経済セミナー、県内企業・観光地視察などを実施し、県人会等との関係強化を図りました。これらの取組を活かし、サンパウロ州との交流が相互の利益となり持続可能なものとしていくこと

が課題です。

- ⑦外資系企業の誘致について、「三重テラス」*での投資セミナーの開催、G N I が主催する、C F K バレーやフラウンフォーファー等の研究機関等が参加した次世代産業高度化セミナーへの参加、大使館や米国商工会議所の訪問等さらなるネットワーク構築に向け積極的に取り組みました。こうした取組により、6月に日本マイクロサム（海外の高機能断熱材メーカーの日本法人）が、生産規模の拡大に伴う津市内への工場移転と併せて本社機能を東京から津市に移転しました。また、8月の知事ミッションによる米国訪問においては、グローバル企業を対象にトップセールスを行い、11月にサンディスク（フラッシュメモリー開発・製造・販売メーカー）が四日市市内に単独で「イノベーションセンター」を開設することが決定しました。今後は、G N I をはじめこれらの活動を通して外資系企業の誘致活動を展開するとともに、欧米などの先進国と連携した研究開発や商品づくりなどにも取り組み、県内へのさらなる投資を呼び込んでいく必要があります。
- ⑧昇龍道プロジェクト推進協議会のハイレベルミッション（5月）に副知事が参加し、「2013 日台観光サミット in 三重」の開催地である三重県をPRしました。また、台北駅で行われた「日本の観光物産博」に参加し、伊賀忍者を活用し三重県をPRしました。引き続き、広域での外国人観光客の誘致を図っていく必要があります。
- ⑨タイについては、タイのテレビ局の旅行番組の撮影（7月）を誘致しました。また、駐日タイ大使と知事との面談（11月）やリーディング産業展でタイ投資セミナーを実施するなど連携を進めています。また、マレーシアにおいては、昨年11月の知事の訪問により、大手旅行会社の社長等を三重県海外観光特使として任命（3月）するとともに三重県への旅行商品を造成し、誘客促進を図っています。
- ⑩鈴鹿市のN P O が伊勢・鳥羽地域で実施した県内在住ブラジル人を対象にしたファム・トリップ（視察旅行）（6月）に協力し、ブラジル人の目線からSNS等により三重県の魅力を発信しました。また、新北市の平溪天灯祭（2月）では、外務省の事業で三重県を視察した台湾の学生に三重県の観光ブース運営を応援してもらいました。今後も、県内在住外国人を対象にしたイベントの活用や外国人学生の活用など、外国人による三重県情報の発信に注力する必要があります。
- ⑪県内環境関連企業等の技術・製品等の海外展開を図るため、アセアンビジネスサポートデスクがI C E T T と連携し、タイ・バンコクで開催された東南アジア最大級の金属加工・工作機械の国際見本市「メタレックス 2013」の会場において、ビジネスマッチングを支援しました。今後は、I C E T T に委託したマレーシアへの展開可能性調査の結果を生かして、同国をはじめアセアン地域への県内環境関連企業等の海外展開の支援を行うとともに、支援モデルを検討することが必要です。
- ⑫駐日ベトナム大使、駐日インド大使、駐日タイ大使などが来県した機会等を活用して、総領事館や大使館とのネットワークを構築しました。今後、大使館等との関係をさらに強化していく必要があります。
- ⑬農林水産物や食品の輸出については、県産品輸出の本格的な推進のために立ち上げた「三重県農林水産物・食品輸出促進協議会」（3月）において、輸出に関心のある生産者や食品関連事業者、農林漁業団体、経済団体など一体となって取り組む必要があります。

- ①「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、長期的視点から次なる成長市場を見据えた新たなネットワークづくりを進めるとともに、これまでに構築したネットワークの活用や、様々な機会を捉えて海外政府機関等との連携を図るなど具体的な取組を展開していきます。また、同方針に基づき、本県の国際関連施策を産学官で、一体的、効果的に展開できるよう、産業、観光、物産など各分野の代表者で構成する「みえ国際展開推進連合協議会（仮称）」を設置します。
- なお、同方針については、同協議会及び「みえ産業振興戦略アドバイザーボード」における意見を踏まえ、適宜、戦略的に内容の見直しを行っていきます。
- ②台湾関係（観光）については、今後とも、台湾の旅行会社との関係を重視し、観光説明・商談会や旅行博出展、物産展開催などを通じ、連携を強化するとともに、観光交流協定（25年10月締結）に基づき、新北市との相互交流を進めます。また、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強め、台湾全域からの誘客を促進します。
- ③台湾関係（産業）については、台日産業連携推進オフィス（TJPO）との産業連携に関する覚書（MOU）に基づき、若手経営者交流会の開催など相互交流、三重大学やジェトロ、公益財団法人三重県産業支援センター等と連携した台湾と県内企業との技術連携の取り組みを進めます。
- ④三重県海外ビジネスサポートデスクについては、企業団体等と連携したPRに取り組むなど、県内企業の活用頻度の向上を図るとともに、「三重県企業国際展開推進協議会」（仮称）に積極的に参画し、海外現地機関等との仲介機能を果たします。特に、中国デスクにおいては、税制面や商標の問題など専門的課題を、ジェトロをはじめ専門的機関と連携して支援に取り組み、アセアンデスクにおいては、タイ以外のアセアン諸国への対応について、ジェトロ等の外部機関との連携や関係諸国の駐日在外公館等とのネットワークの強化を通じて、サポート機能を充実していきます。
- ⑤ブラジルについては、サンパウロ州との共同宣言に記載された4分野の取組を推進していくため、①教育、②環境ならびに気候変動、③商工業、④観光の分野につき、情報の共有や具体的な取組の検討を進め、同州からの環境技術研修生の受入や県内環境関連企業のブラジルへの展開可能調査、ブラジル旅行会社の招へいなどの事業に取り組んでいきます。
- ⑥外資系企業の動きを敏感に察知するため、各国の大使館などのネットワークをしっかりと継続していきます。また、海外の展示会への参加など、三重県単独では取り組みにくい事業でGNIの機能を十分に活用できる事業を進めていきます。さらに、競争力のある外資系企業を誘致するため、欧米等の先進国における研究機関や地域との連携を強めそのネットワークを活かした効果的な誘致活動を進めるとともに、本県の高度部材産業群などの強みを生かした産業連携を模索します。
- ⑦外国人観光客の誘客については、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を中部運輸局や中部広域観光推進協議会と一体となって進め、地域全体での知名度向上を行います。また、Wi-Fi等の外国人観光客の受入環境整備につき、みえ旅案内所等への整備を促進し、さらなる受入環境向上に取り組んでいきます。
- ⑧タイ、マレーシア、香港、フランスなどからの誘客については、集中的なセールスや三重県海外観光特使の委嘱等により、重点的にプロモーションを実施します。加えて、観光誘客のみならず、産業や物産と一体となって三重県の魅力を総合的にPRし、ビジネス客も含めた海外からの来県者の増加を目指します。
- ⑨外国人による三重県情報の発信については、三重県海外観光特使の委嘱、在住外国人を対象にしたイベントへの参加、国の外国人学生招聘事業への協力など、機会を捉え行っていきます。

- ⑩三重県企業が強みを有する環境関連技術について積極的な海外展開を図っていくこととしており、現地のニーズを的確に把握し、I C E T Tや中部経済産業局とも連携しながら、海外展開を支援していきます。
- ⑪大使館等とのネットワークについては、大使、総領事等の来県のを機会などを効果的に活用し、関係の維持強化を図っていきます。
- ⑫農林水産物や食品の輸出については、「三重県農林水産物・食品輸出促進協議会」を活用しながら関係者との連携を図っていきます。

* 「○」の着いた項目は、平成 26 年度に特に注力するポイントを示しています。

【主担当部局： 雇用経済部 観光・国際局】

プロジェクトの目標

三重県観光の「予感」(三重へ行ってみたい)・「体感」(三重で旅行を満喫)・「実感」(三重は楽しかった、また行きたい)のサイクルが築かれ、観光産業が本県の経済をけん引する産業の一つとして確立されています。そのため、観光旅行者の多様なニーズに対応するさまざまな観光振興の取組を、県民の皆さん、市町、観光事業者、観光関係団体等と連携して進めます。4年後には、観光の基盤づくりが進み、観光旅行者の満足度が向上し、式年遷宮*後も観光入込客数が持続的に確保されています。

評価結果を踏まえたプロジェクトの進展度と判断理由

進展度	B (ある程度進んだ)	判断理由	プロジェクトの数値目標は達成しました。実践取組についても、5項目中4項目で目標を達成したことから、「ある程度進んだ」と判断しました。
-----	----------------	------	--

【*進展度：A(進んだ)、B(ある程度進んだ)、C(あまり進まなかった)、D(進まなかった)】

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
観光レクリエーション入込客数	/	3,650万人	4,000万人	1.00	4,000万人	4,000万人
	3,565万人	3,787万人	4,080万人		/	/

目標項目の説明と平成26年度目標値の考え方

目標項目の説明	1年間に観光レクリエーション等の目的で県内の観光地を訪れた人数について、全国観光統計基準に基づき集計した推計値
26年度目標値の考え方	遷宮効果により、誘客が順調に進んでいることから、最終目標値4,000万人を前倒しし、高い水準での維持を図っていくこととします。

実践取組の目標

実践取組	年次計画のうち 主なもの	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
1「さまざまな主体との連携による観光PR・誘客」に挑戦します!	延べ宿泊者数	/	770万人	800万人	1.00	800万人	800万人
		756万人	833万人	969万人		/	/
	リピート意向率	/	82.0%	88.0%	0.96	94.0%	100.0%
		77.8%	83.9%	84.5%		/	/

実践取組の目標							
実践取組	年次計画のうち 主なもの	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
2「海外での認知度アップによる来訪者の増加」に挑戦します！	県内の外国人延べ宿泊者数	/	100,000人	120,000人	1.00	135,000人	150,000人
		90,990人	94,660人	130,890人		/	/
	海外の自治体等との連携事業数(累計)	/	2件	5件	1.00	(達成済)	10件
		—	3件	10件		/	/
3「来訪を促進する観光の基盤づくり」に挑戦します！	受講生が取り組んだ地域活動数(累計)	/	10件	20件	1.00	35件	40件
		—	13件	29件		/	/

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	52	253	207	/

平成25年度の取組概要

- ①式年遷宮や世界遺産登録10周年などの好機を捉え、三重の認知度向上、周遊性・滞在性の向上、おもてなしの向上をめざす官民一体となった三重県観光キャンペーンを実施
三重県観光キャンペーンの核となる、「みえ旅パスポート」(発給数：205,976件)、「みえ旅案内所」(68施設⇒87施設)、「みえ旅おもてなし施設」(640施設⇒820施設)の構築を行うとともに、地域部会の活用やテーマ性・ストーリー性を持った情報発信、SNS*を利用した三重の観光情報発信の強化により、キャンペーン終了後も持続する魅力的な観光地づくりを推進
- ②「遷宮」や「古事記」など共通テーマを持つ他県や東大和西三重観光連盟、西美濃北伊勢観光サミットなど近隣地域との県境を越えた地域間連携により効果的な情報発信を推進
- ③「2013日台観光サミット in 三重」の開催を契機として、継続的に台湾からの誘客促進を図るとともに、国際戦略の指針を策定し、「選択と集中」によりターゲットを明確にした海外誘客戦略を展開
- ④「昇龍道プロジェクト」など広域連携によるスケールメリットを活かした海外誘客を推進
- ⑤外国人が多く訪れる県内観光地を対象に、外国人観光客受入環境の整備を促進
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」を積極的に活用し、国内外への情報発信及び誘客を促進
- ⑦ロケツーリズムやエコツーリズム、スポーツツーリズム*、産業観光など地域資源を生かしたニューツーリズムを支援
- ⑧バリアフリー観光に先進的に取り組む特定非営利法人伊勢志摩バリアフリースターセンター等との連携により、日本一のバリアフリー観光県づくりを推進
- ⑨観光事業者等を対象とした観光面での防災対策の啓発と三重県新地震・津波対策行動計画における観光防災に関する取組のとりまとめ

平成 25 年度の成果と残された課題（評価結果）

- ①観光キャンペーンでは、官民連携して「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」の充実を図りました。観光客実態調査において、主要観光地への立寄地点数が県内すべての地域で上昇（北勢：1.13→1.32、中南勢：1.20→1.45、伊勢志摩：2.78→3.20、伊賀：1.48→1.49、東紀州：1.96→2.10）していることから周遊性が向上したものと思われます。これらの結果を踏まえ、今後とも効果的な情報発信や誘客促進につなげていく必要があります。
- また、県内全市町に5つの地域部会の参画を得て、県内各地の地域の魅力発見や情報発信、地域連携事業の実施など、地域と一体となった取組を進めました。
- 情報発信については、オフィシャルガイドブック（各30万部発行）やエリアパンフレットを半年ごとにテーマを更新して発行し、県内各地の旬の情報やキャンペーン企画の情報を提供しました。また、オフィシャルホームページを11月にはスマートフォン対応にするとともに、観光連盟と連携して、フェイスブックやツイッター、LINEを利用した観光情報発信に取り組みました。
- 首都圏等大都市圏においては、三重テラス*、名古屋桜通りカフェや雑誌媒体を活用した女性、シニア等に狙いを絞った情報発信やメディア等を対象にした企画提案、情報発信を行うとともに、地方では、百貨店の物産展などでPRを行いました。（メディア掲載件数159回　うち新聞115回、雑誌25回、TV19回）
- 民間事業者等との連携では、75社を超える企業等に協力いただき、商品開発、ロゴマークの活用、ポスターの掲出など、官民が一体となった三重県の認知度向上に取り組みました。また、県ゆかりの著名人8人を新たに「みえの国観光大使」に任命し、イベントやメディアを通じて、三重県のPRを行いました。
- 引き続き、地域部会や民間企業等と連携した取組を実施することで、官民が一体となった継続的な観光誘客や周遊性、滞在性の向上を進めていく必要があります。
- ②「遷宮」や「古事記」などの共通テーマを持つ他県と連携し情報発信を行いました。これらの取組により、日経トレンディの2013ヒット商品ベスト30の5位に「伊勢・出雲」が選ばれるなど、全国的に認知度が向上しました。また、東大和西三重観光連盟や西美濃北伊勢観光サミットなど近隣地域が県境を越えて情報発信することで、誘客の促進や周遊性の向上に努めました。今後とも、共通テーマを持つ他県や近隣地域との県境を越えた広域連携により、効果的な情報発信を行い、認知度を高めていく必要があります。
- ③「2013日台観光サミット in 三重」を契機に、継続的な誘客促進を図るため、サミット終了直後に台湾にミッション団を派遣し、台北、台中、高雄で説明会や商談会を開催するとともに、三重県に協力的な旅行会社による「三重県観光アドバイザリー会議」を開催するなど、台湾との取組を集中的に実施しました。その結果、三重区のある台湾新北市との観光交流協定締結（10月）、天灯祭における新北市との交流、台湾ランタン祭への出展など日台双方の観光文化交流促進が評価され、2月には台湾交通部観光局から「2014台湾観光貢献賞」を受賞しました。これら取組の結果、平成25年の台湾から三重県への延べ宿泊者数は27,360人となり、目標としていた25,000人を上回り過去最高を記録しました。また、海外から三重県への誘客を促進するために「三重県海外観光特使」制度を創設し、平成26年3月に、マレーシアからの誘客を進めるため、マレーシアの旅行会社のトップに初めて委嘱しました。国際戦略の指針となる「みえ国際展開の基本方針」*を昨年9月に策定したことから、今後とも海外誘客については、同方針に基づき、ターゲットとする国・地域を絞り込んで展開していく必要があります。

- ④海外でのPRについては、「昇龍道プロジェクト」など広域連携による取組を中部運輸局や中部広域観光推進協議会と一体となって進めていく必要があります。
- ⑤外国人観光客の受入環境の向上を図るため、外国人観光客が訪れるみえ旅案内所等に指さし案内や、Wi-Fi整備（平成25年度までに73ヵ所整備予定）を行いました。今後とも、引き続き、整備を進めていく必要があります。
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」については、海外のプレスを招いてプレスツアー開催など、地域が中心となった協議会が実施するイベントや情報発信等への支援が必要です。平成26年度は、全国海女サミットが志摩市で予定されており、サミット成功に向けて地域と連携していく必要があります。
- ⑦JFC（ジャパンフィルムコミッション）の総会を9月に伊勢市に誘致し開催しました。また、県内9つのフィルムコミッションにおいて、映画やドラマ、CM等、年間200件を越える取材協力や撮影支援を行うとともに、テーマを絞ったロケ地巡り用の冊子「映画旅文学旅みえ」の作成や今年5月公開の映画「WOODJOB」の全国公開に併せて、ロケ地マップを作成しました。今後、映画配給会社とタイアップしたPRなど、関係市町と連携しロケツーリズムを推進する必要があります。また、周年事業や県内各地域の取組等と連携しながらエコツーリズムやスポーツツーリズムを推進するなど地域資源を生かしたニューツーリズムが地域に定着するよう、取組を進める必要があります。
- ⑧6月の「バリアフリー観光全国フォーラム伊勢大会」において、「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」を行い、研修会や高齢者、障がい者を対象としたモニターツアーを実施しました。今後、県内全域でバリアフリー観光を推進することを通じて、おもてなしの向上にもつなげていく必要があります。
- ⑨観光事業者を対象とした観光地の防災に関する啓発活動を2回実施しました。今後、三重県新地震・津波対策行動計画に基づき、観光地の防災対策を進めていく必要があります。
- ⑩「みえICTを活用した産業活性化推進協議会」に観光ワーキンググループを設置し検討をはじめました。

新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議における主な意見

- ①式年遷宮を生かした国内誘客については、交通渋滞対策を含め、概ねうまくいったのではないかと。初めて伊勢（三重）に来た観光客が増えており、この人たちがリピーターとなって再び訪れていただけるかが今後の課題である。現場では、多くのお客さんの対応に追われ、充分なおもてなしができなかったという心配の声も聞こえるが、20年前のような悪い評判（二度と来たくない）は聞いていない。
- ②今後、団体客より個人客が中心となってくる。公共交通機関で来県した個人客が、行きたい場所に周遊できるようにするためには二次交通の整備が重要である。伊賀地域では、今年4月から、レンタカー会社と連携し、レンタカープランを実施する予定である。また、荷物がネックとなり、公共交通機関の利用が敬遠されるケースが多い。荷物を置くスペースの確保や搬送サービスのシステムがあれば行動範囲が広がり、公共交通機関利用増も見込まれる。
- ③三重県には、海女や忍者など本物の観光資源があるが、観光メニューがないと観光客を呼ぶことはできない。「忍者」については、伊賀でも十数年前まではなかったが、忍者ショーや体験施設などのメニューが整ってきて、最近では、忍者体験が企業研修（精神修行）として取り入れられるケースも出てきた。「海女」については、世界遺産登録は海外誘客にとっても効果があるが、現地でもなかなか本物の海女を見ることはできないので、しろんご祭りや御潜（みかつき）神事など伝統的な祭

りを通じて見える形でPRすることが重要である。

- ④外国人誘客を推進するためには、外国人が判断するための観光品質認証を研究する必要がある。
また、W i - F i 環境の整備は不可欠である。
- ⑤これから建物の耐震規制がおこなわれる。耐震規制は防災上大切であるが、今後、小規模な旅館も対象となることを懸念している。

平成 26 年度の改善のポイントと取組方向

- ①式年遷宮「おかげ年」の機運を持続させるとともに、平成 26 年の熊野古道世界遺産登録 10 周年等の好機を最大限活用し、引き続き、みえ旅パスポートの発給促進、みえ旅案内所、みえ旅おもてなし施設の充実を図るとともに、地域部会や民間事業者等幅広い主体と連携した取組を進めることで、官民一体となった誘客促進を図ります。三重テラスを活用した首都圏等での情報発信、みえ旅パスポート八十八ヵ所めぐりスタンプ帳の配布、全国規模の観光展である「ツーリズム E X P O 2014」への出展、熊野古道世界遺産登録 10 周年を記念したドライブプランの実施、おもてなし施設ガイドマップの作成、旅行商品造成の働きかけ等展開することで、本県への誘客促進、来訪者の周遊性・滞在性の向上に取り組めます。
- ②別宮の遷宮、古事記、歴史街道などテーマやストーリーづくりを重視し、神話や古事記等を通じて共通の話題を有する島根県、奈良県、和歌山県等との連携や県境を越えた連携を強化し、旅こころをひきつける、テーマ性、ストーリー性を有した情報発信を実施し、誘客の促進と周遊性の向上を図ります。
- ③「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾、タイ、マレーシアについて、集中的なセールスや「三重県海外観光特使」の委嘱等により、効果的、重点的にプロモーションを実施します。台湾については、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強化し、台湾全域からの誘客を促進します。
- ④観光誘客のみならず、産業や物産と一体となり三重県の魅力を総合的にPRし、ビジネス客も含めた海外来県者全体の増加を目指します。また、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を進め、中部地域全体での知名度向上を行います。
- ⑤W i - F i、案内表示等の外国人観光客の受入環境整備について、みえ旅案内所等への整備を促進します。
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」について、引き続き、地域の協議会での取り組みを支援することで、地域全体の連携を促すとともに、モデルコースの設定やイベント・祭りを通じて、国内外への発信を強化します。
- ⑦ロケ地マップやテーマを絞った冊子、周年事業等を活用し、ロケツーリズム、スポーツツーリズム、エコツーリズムなどの地域資源を生かしたニューツーリズムの取組について、情報発信を中心に連携して取り組みます。
- ⑧障がい者、高齢者など移動に困難を伴う方に、県内のバリアフリー観光情報を発信するとともに、受け入れ側の情報提供機能や相談機能を高めることで、地域におけるコンシェルジュ機能を充実します。
- ⑨三重県新地震・津波対策行動計画にもとづき、防災対策部と連携して観光防災にかかる人材育成、課題検討の場づくり、避難訓練の実施などに取り組めます。
- ⑩I C Tについては、産学官連携による観光ワーキンググループにおいて、引き続き、観光客の利便性向上や観光産業の振興につながる実証事業の実施に向けた取組を進めます。

⑪交通対策については、地域協議会の一員として、関係機関と連携しながら交通渋滞の緩和などの課題解決に取り組むとともに、引き続き二次交通対策についても地域と連携して検討します。

三重県観光振興基本計画の概要 (1/2)

第1章 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

「みえの観光振興に関する条例」第21条の規定に基づき、観光振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画として策定します。

2 計画の性格

本計画は、県が取り組む観光振興に関する施策等を明らかにした行政計画です。
また、本計画は、「みえ県民力ビジョン」における「協創」の考え方を踏まえ、市町、県民、観光事業者、観光関係団体等さまざまな主体の力を結集し、めざすべき三重県観光の将来の姿とその実現に向けた方向性を共有するための共通指針となるものです。

3 計画期間

概ね10年先を見据えつつ、平成24年度（2012年度）から平成27年度（2015年度）までの4年間とします。

第2章 三重県観光の現状と課題

1 観光を取り巻く環境

- 人口減少社会の本格化
- 東日本大震災による観光需要の減少
- 旅行に関する国民の意識等の変化
- 観光立国の推進

2 三重県観光の現状

- 入込客数等の推移
- 観光旅行者の動向
- 観光旅行者からの評価
- 三重県観光に対する期待
- 観光消費がもたらす経済効果

3 三重県観光振興プランの推進による主な実績と今後の課題

平成16年（2004年）11月に策定した「三重県観光振興プラン」に基づき、平成22年度（2010年度）までの6年余の計画期間を通じて、3つきの観光戦略を展開しました。
「観光レクリエーション入込客数」については目標を達成することができたものの、「観光客満足度」については未達成となり課題を残しました。

1 めざすべき姿

- 観光産業の持続的かつ健全な発展が図られていること
- 県、市町、県民、事業者、関係団体がそれぞれの役割を担い、連携が確保されていること
- 本県の観光資源が有する魅力を生かして県内外からの観光旅行が促進されていること
- 観光旅行者の満足度の向上が図られていること
- 本県の観光資源が有効に活用され、かつ、次の世代に継承が図られていること
- 地域の環境の保全と観光旅行を促進するための環境の整備との調和が図られていること

2 基本方針と施策体系

遷宮後も持続する三重県観光のさらなる発展に向けて、以下の基本方針のもと、さまざまな主体が力を合わせ、観光産業を地域に密着した産業として大きく育てる等、施策を展開します。

（基本方針）

- 国内外に対する観光宣伝活動の強化
- 魅力ある観光地の形成及び人材の育成
- 観光旅行を促進するための環境の整備

（施策体系（施策展開の柱））

- 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略
- 三重県の特性を生かした海外誘客戦略
- 観光産業の高付加価値化戦略
- おもてなしの心を形にする
- 観光の魅力づくり・人づくり戦略
- 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり戦略

3 計画目標

項目	項目の説明	現状値	目標値 (平成27年度)
観光消費額	観光旅行者が県内において支出した観光消費額（交通費、宿泊費、飲食費、買物費等） 【観光・交通振興（観光）】	4,449億円 (平成22年度)	5,250億円
観光レクリエーション入込客数	県内の観光地を訪問した観光旅行者数と、全国観光統計基準に基づき算出した推計値 【観光・交通振興（観光）】	3,562万人 (平成22年度)	4,000万人
観光旅行者満足度評価	県内の観光地を訪問した観光旅行者の満足度を100満点満点に換算した数値 【観光・交通振興（観光）】	81.1点 (平成22年度)	100点
リピート意向率	本県を再び訪れたと回答した観光旅行者の割合（7段階評価の上位2段階） 【観光・交通振興（観光）】	75.7% (平成22年度)	100%
県内の延べ宿泊者数	県内の宿泊施設における延べ宿泊者数 【観光庁（宿泊旅行統計調査）】	708万人 (平成22年度)	800万人
県内の外国人延べ宿泊者数	県内の宿泊施設における延べ外国人宿泊者数 【観光庁（宿泊旅行統計調査）】	106,000人 (平成22年度)	150,000人
観光における海外自治体等との連携事業数（累計）	海外の自治体等と連携し、観光旅行者の誘致に取り組んだ事業数 【観光・交通振興（観光）】	0件 (平成22年度)	10件

三重県観光振興基本計画の概要（2/2）

第4章 三重県観光の持続的な発展に向けた施策の展開

1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客

施策展開の方向性

式年遷宮により全国からの注目が集まる絶好の機会を生かして、三重県の観光PRに取り組み、首都圏をはじめとする全国各地からの誘客を戦略的に進め、国内からの誘客の拡大をめざします。

- (1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化
- (2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり
- (3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致

2 三重県の特性を生かした海外誘客

施策展開の方向性

三重県が世界に誇る観光資源を活用した情報発信の強化、有望な市場に対するミッションの派遣等により、海外における三重県の認知度を高めるとともに、他府県さらには海外自治体等との連携も図り、海外からの誘客の拡大をめざします。

- (1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開
- (2) 国及び他府県との広域連携の推進
- (3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実

3 観光産業の高付加価値化

施策展開の方向性

観光産業を地域に密着した産業として持続的に発展させていくため、観光産業と、ものづくりなど他分野の産業との組み合わせによる新たな価値の創出に取り組みるとともに、観光事業者の経営革新に向けた取組の促進、経営基盤を強化するための環境整備等を進めるなど、観光産業の振興を図ります。

- (1) 観光産業の育成・振興
- (2) 観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応
- (3) 観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり

4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり

施策展開の方向性

地域における観光人材の育成、「おもてなし」の向上、郷土三重の良さや地域の魅力の再発見につながる取組の促進、さらには、世界遺産・熊野古道伊勢路の活用など地域が主体的に行う観光地づくりへの支援等を通じて、三重県の観光の魅力を高めめます。

- (1) 観光地づくりを担う人材の育成（「おもてなし」の向上）
- (2) 県民の観光行動の促進
- (3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援

【地域別観光振興の方向（北勢・中南勢・伊勢志摩・伊賀・東紀州）】

5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり

施策展開の方向性

快適で美しい観光・交流空間づくり、観光旅行者の利便性の向上、観光旅行における安全の確保、観光振興に資する交通基盤の構築等、三重県への観光旅行を促進するための観光の基盤づくりを進めます。

- (1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり
- (2) 人にやさしい観光地づくり
- (3) 観光旅行の安全・安心の確保
- (4) 観光振興に資する交通基盤等の構築

第5章 推進体制の整備

1 計画の推進体制

県、市町、県民、観光事業者、観光関係団体がそれぞれの役割を担いながら、連携・協力して本計画を推進します。

2 観光統計の整備

観光統計の整備を、観光振興における重要なインフラ構築と位置づけ、市町、観光事業者及び観光関係団体との連携・協力を深め、旅行市場に関する情報・データの把握、観光旅行者の動向調査等、観光に関する情報の収集及び分析等を拡充させていただきます。

3 計画の進行管理

本計画を着実に推進していくため、各施策の進捗状況等を把握し、適切に進行管理を行います。また、進捗状況の結果については、年次報告書としてまとめ、公表します。

三重県観光振興基本計画の目標項目

(1) 観光消費額

$$\boxed{\text{三重県全体の観光消費額}} = \boxed{\text{5地域ごとの観光消費額の合計}}$$

地域ごとの観光消費額

= 宿泊入込客観光消費単価×宿泊入込客数 + 日帰入込客観光消費単価×日帰入込客数

* 宿泊入込客数と日帰入込客数は、地域ごとの観光入込客数に、三重県観光客実態調査による宿泊客と日帰り客の割合を乗じて算出。

* 観光消費額単価は、三重県観光客実態調査による、一人当たりの交通費、宿泊費、飲食費、買物費、入場料、その他の額の合計額。

【観光政策課調べ】

(2) 観光レクリエーション入込客数

1年間に観光レクリエーション等の目的で県内の観光地を訪れた人数について全国観光統計基準に基づき集計した推計値

【観光政策課「観光レクリエーション入込客数推計書」】

(3) 観光旅行者満足度評点

県内の観光地を訪れた観光旅行者の満足度を100点満点に換算した数値

【観光政策課「観光客実態調査」】

(4) リピート意向率

本県を再び訪れたいと回答した観光旅行者の割合（7段階評価の上位2段階）

【観光政策課「観光客実態調査」】

(5) 県内の延べ宿泊者数

県内の宿泊施設における延べ宿泊者数

【観光庁「宿泊旅行統計調査」】

(6) 県内の外国人延べ宿泊者数

県内の宿泊施設における延べ外国人宿泊者数

【観光庁「宿泊旅行統計調査」】

(7) 観光における海外自治体等との連携事業数（累計）

海外の自治体等と連携し、観光旅行者の誘致に取り組んだ事業数

【国際戦略課調べ】

三重県観光振興基本計画の目標達成状況

目標項目	現状値 (平成22年)	平成23年 の現状値	平成24年 の現状値	平成25年 の現状値 (目標値)	平成26年 の目標値	平成27年 の目標値
(1) 観光消費額	(目標)	<100>	(5,189億円) <116>	(5,680億円) <127>	(5,680億円) <127>	(5,680億円) <127>
	(実績)	4,449億円	4,473億円	4,535億円 <101>	5,342億円 <119>	
(2) 観光レジャーイン込客数	一人当たり 観光消費額					
	(目標)		12,544円	11,976円	13,093円	(14,200円)
(実績)	3,562万人	3,565万人	3,787万人	4,080万人	4,000万人	4,000万人
(3) 観光旅行者満足度評点	(目標)					100点
	(実績)	81.1点	82.5点	81.8点	82.7点	
(4) リピート意向率	(目標)					100.0%
	(実績)	75.7%	77.8%	82.0%	88.0%	94.0%
(5) 県内延べ宿泊者数	(目標)					800万人
	(実績)	708万人	756万人	833万人	969万人	800万人
(6) 県内の外国人 延べ宿泊者数	(目標)					150,000人
	(実績)	106,000人	90,990人	100,000人	120,000人	135,000人
(7) 観光における海外自治体 との連携事業数(累計)	(目標)	-	-	2件	5件	(達成済) 10件
	(実績)	-	-	3件	10件	

3 三重県の観光施策の体系 大項目5 - 中項目16 - 小項目78

大項目	中項目	小項目(見出し)
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	① 三重県観光キャンペーンの展開
		② 首都圏営業拠点でのPR、三重県営業本部を通じた情報発信
		③ 大都市圏での情報発信、観光情報提供会
		④ (公社)三重県観光連盟との連携
		⑤ フィルムコミッションとの連携
		⑥ 県ゆかりの著名人やみえの国観光大使によるPR
	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	① 三重の観光営業拠点運営協議会を通じた地域企画型旅行商品の流通支援
		② 観光圏整備事業の促進
		③ 他府県等との広域連携
		④ 各地域における広域連携
	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	① 県外学校の教育旅行の誘致
		② 県内学校の教育旅行による活用
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	① トップセールス、ミッション派遣
		② 世界に誇る県内観光資源の発信
		③ ファムトリップ対応、海外への魅力発信
		④ 海外向け旅行モデルコースの設定及び提案
		⑤ 中国・河南省との観光・交流
		⑥ JNTO現地事務所及び駐日外国公館等との連携による情報発信等
	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	① ビジット・ジャパン事業、国やJNTOとの連携
		② 広域団体との連携
		③ 中部及び関西の結節点を活用した広域観光ルートの開発
		④ 中部及び関西国際空港における外国人観光旅行者への情報提供
	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	① 外国人向け観光情報発信
		② 多言語表記等による案内表示
		③ 三重県外国人観光客誘致促進協議会を核とした視察・取材の受け入れ
		④ 外客受入研修会、受入対応力向上
	3 観光産業の高付加価値化	(1) 観光産業の育成・振興
② 地域資源を活用したコミュニティビジネスによる経済活動への支援		
③ 観光に関する統計調査の実施		
④ 中小企業の資金調達に係る支援		
(2) 観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応		① グリーン・ツーリズムの推進
		② エコツーリズムの普及促進
		③ 産業観光の促進
		④ ヘルスツーリズムの促進
		⑤ 医療観光の促進
		⑥ スポーツツーリズムの促進
(3) 観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり		① 三重県営業本部での三重ブランドの魅力PR
		② みえフードインベーションを通じた商品開発及び県産品認知度向上
		③ みえ地物一番、地産地消情報の提供
		④ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」、「みえ農商工連携推進ファンド」
		⑤ 伝統産業や地場産業の活性化

大項目	中項目	小項目(見出し)
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	① 「おもてなし」の向上
		② 観光キーパーソンの育成
		③ おもてなしの心あふれる観光ボランティアガイドの育成
		④ 講演会等の開催を通じた観光人材の育成、男女共同参画
		⑤ 美し国おこし・三重
		⑥ 東紀州地域振興公社、熊野古道語り部の育成
		⑦ 宮川流域エコミュージアム、宮川流域案内人の育成
		⑧ 農林漁業体験等の指導者研修
	(2) 県民の観光行動の促進	① 観光パンフレットの掲出
		② 郷土教育の推進
		③ 歴史的・文化的資産の活用による人材育成・地域づくり
	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	① 観光旅行者の周遊性・滞在性の向上
		② 地域における観光の魅力づくりへの支援
		③ 世界遺産熊野古道の保存、活用に向けた関係機関との連携
		④ 海女や忍者等を活用した三重県観光モデルの構築
		⑤ 「美し国おこし・三重」を通じた地域づくり活動への支援
⑥ 環境に配慮したクリーンな観光地づくり		
⑦ 市町や地域の広域団体による観光振興計画策定		
(地域別観光振興の方向)		
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	① 景観に配慮したまちづくりの促進
		② 街路整備や電線類の地中化
		③ 日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会
		④ 潤いのある水辺空間の創出
		⑤ 自然公園や自然遊歩道等の整備及び維持管理
	(2) 人にやさしい観光地づくり	① ユニバーサルデザインに配慮した施設整備
		② バリアフリー化の促進
		③ 熊野古道を歩く観光旅行者の利便性向上
		④ 多言語表記等による案内表示【2(3)②再掲】
	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	① 危機管理情報の収集及び伝達体制づくり
		② 避難訓練等への支援
		③ HACCP(ハサップ)、自主衛生管理システムの導入促進
		④ 食品表示の監視指導
		⑤ 県管理の道路・河川・海岸等施設の維持管理
		⑥ 飲食店及び旅館事業者等からの暴力団排除
	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	① 道路ネットワークの形成推進
		② 交通網の整備促進や空港等の利用促進
		③ 熊野古道シャトルバス、二次交通の充実
		④ パーク&バスライドへの支援

4 平成25年度観光施策の取組状況

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)① 三重県観光キャンペーンの展開	式年遷宮を本県への誘客を図る絶好の機会と捉え、市町、県民、観光事業者、観光関係団体のほか、県ゆかりの企業等と連携して、観光キャンペーンを展開します。	<p>○ 官民が連携して「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」の充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みえ旅パスポート発給数 205,976件 (3月末現在) ・みえ旅案内所の設置 68施設 ⇒ 87施設 ・みえ旅おもてなし施設の募集 640施設 ⇒ 820施設 <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 5つの地域部会に県内全市町の参画を得て、県内各地の地域の魅力発見や情報発信、地域連携事業の実施など、地域と一体となった取組を進めました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ オフィシャルガイドブックやエリアパンフレットを半年ごとにテーマを更新して発行し、県内各地の旬の情報発信やキャンペーン企画の情報提供を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ オフィシャルホームページを11月にスマートフォン対応にするとともに、観光連盟と連携して、フェイスブックやツイッター、LINEを利用した観光情報発信に取り組みました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 首都圏等大都市圏においては、三重テラス、関西事務所、名古屋桜通りカフェと連携して、雑誌媒体を活用した女性、シニア等に狙いを絞った情報発信やメディア等を対象にした企画提案、情報発信を行うとともに、地方では、百貨店の物産展などでPRを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア掲載件数 159件 (新聞115回、雑誌25回、TV19回) <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 民間事業者等との連携では、75社を超える企業等に協力いただき、商品開発、ロゴマークの活用、PRなど、官民が一体となった三重県の認知度向上に取り組みました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 紀勢自動車道の延伸に併せて、定額料金で高速道路が乗り放題となる「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを、中日本高速道路株式会社と連携し企画実施しました。(実施期間：平成25年3月24日～9月30日)</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)② 首都圏営業拠点でのPR、三重県営業本部を通じた情報発信	現在、設置に向けた検討を進めている営業拠点での観光PR等、「三重県営業本部」による取組を通じて、国内における情報発信を強化します。	<p>○ 首都圏営業拠点「三重テラス」については、江戸時代における伊勢商人の拠点であり、今なお三重ゆかりの老舗が残り、また、お伊勢参りの出発点でもある東京日本橋に9月28日にオープンしました。 【雇用経済部三重県営業本部担当課】</p> <p>○ 首都圏営業拠点「三重テラス」を核とした営業展開については、目的・ターゲットを明確にしつつ、①「首都圏全体での面的な情報発信」、②「集客力の高いエリアでの情報発信」、③「コアな三重ファンの拡大、応援店舗・応援企業」のネットワーク拡大、④「県内生産者と首都圏流通事業者との商談会、県内中小企業と首都圏企業とのマッチング等による販路拡大」、の4つの展開により、市町や関係団体とも連携しながら、県内への誘客や県産品の販路拡大に向けた「打って出る営業活動」を行い、三重の魅力の総合的、効果的な情報発信の取組を進めました。（営業本部活動回数（累計）477回）（三重の応援団など三重県を応援する三重県ファン数（累計）802人） 【雇用経済部三重県営業本部担当課】</p> <p>○ 関西圏から本県への観光誘客を促進するため、「三重のPRキャラバン隊」を結成し、関西圏で実施される観光展などのイベント等で観光PRを行いました。（93件）また、関西圏で観光・物産PRを目的とした三重県フェア（3回）を実施したほか、関西圏で開催された観光展、物産展等へ参加（80回）しました。その他、関西圏の地域特性に合わせた情報発信とネットワークの強化を通じて、営業基盤の構築を図りました。（プレスツアー5回、マスコミキャラバン9回、情報発信実績92件） 【関西事務所】</p> <p>○ 県外からの集客向上を図るため、「伊勢」をテーマに首都圏営業拠点「三重テラス」において、「みえミュージアムセミナー」を開催しました。（3回127人）また、東京と大阪のカルチャーセンターにおいても、「大都市圏連続セミナー」を開催しました。（6回385人） 【環境生活部文化振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)③ 大都市圏での情報発信、観光情報提供会	首都圏、関西圏、中京圏等の大都市圏において、メディアを活用した情報発信に取り組みほか、旅行会社等関係者に対する説明会を通じた働きかけ等により、本県への誘客を促進します。	<p>○ 平成25年は、20年に一度の式年遷宮（遷御の儀）が行われるなど、三重県が全国から注目を集める絶好の機会であったことから、この好機を生かして全国に向けて三重県の魅力を発信しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 出版社や新聞社、テレビ局、WEBを対象にメディアキャラバン（訪問数：26社）、プレスツアー（参加者数：10媒体27名）を実施し、メディアとの関係構築を図りました。その結果、9媒体に本県の観光情報が掲載されました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 三重県営業本部と連携して、首都圏においてメディア、旅行会社等を対象とした三重県観光交流会を開催し（平成26年1月31日）、本年「おかげ年」である伊勢神宮や本県で長期ロケが行われた「WOODJOB～神去（かむさり）なあなあ日常～」の公開、7月には熊野古道伊勢路が世界遺産登録10周年を迎えるなど、本年注目のトピックスの共通項である「三重の森」をメインテーマに三重県にゆかりのある著名人に三重の魅力を伝えてもらうトークセッションを開催するなど、三重県の魅力を発信するとともに、メディア関係者等と県内各地の市町、観光協会、観光事業者等が直接交流し、メディアとの関係構築を図りました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 関西圏、中京圏においては、三重県に対する認知度が高く、直接、誘客に繋がりやすい地域であることから、メディア等を対象とした観光情報提供会を各2回開催し、最新の話題や旬の魅力等を積極的に発信し、交流することで、メディア等との関係を深めました。 関西圏：平成25年7月18日、平成26年3月24日 中京圏：平成25年7月10日、平成26年3月26日 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)④ (公社)三重県観光連盟との連携	(社)三重県観光連盟等と連携して、本県への来訪の動機づけを行う観光情報の発信に取り組みます。	<p>○ 三重県観光キャンペーンの情報発信において、(公社)三重県観光連盟の事業と連携し、観光関係事業者等との官民協働による情報発信力の強化に努めました。具体的には、ホームページ「かんこうみえ」のサイト内に、観光キャンペーンのホームページを設け、三重県内の観光情報と併せた発信を行うとともに、季刊紙「観光三重」など、観光連盟が持つツールを活用した県内の魅力発信に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 情報発信ツールとして活用が広がっているSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用し、フェイスブック、ツイッター及びLINEでの情報発信に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ (公社)三重県観光連盟のフリーダイヤルや窓口等への問い合わせに対し、三重県の観光案内を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)⑤ フィルムコミッションとの連携	県内のフィルムコミッションとの連携を図りながら、本県を舞台とした映画、テレビ番組等とタイアップした観光情報の発信を行います。	<p>○ 平成25年度ジャパンフィルムコミッション通常総会を伊勢市で開催し、総会にあわせて、本県に関わりの深い映画の上映やロケ地ツアーを企画実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常総会：平成25年9月27日（賓日館） ・JFC総会開催記念特別上映会、シンポジウム：平成25年9月26日（賓日館） ・ロケ地ツアーの実施：平成25年9月27日（「きいろいぞう」ロケ地） <p>【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 映像・映画関係者をターゲットに、県内フィルムコミッションの取組や撮影地を紹介するロケ地ガイドブック「シネマティックみえ」を1,000冊増刷しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 三重県が舞台となった小説やドラマ、映画などのスポットやその地域の観光情報を紹介するガイドブックを作成しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 平成25年6～7月にかけて三重県内を中心にロケが行われた映画「WOODJOB! 神去なあなあ日常」（平成26年5月公開）をPRする、ロケ地マップを33,000部作成しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 県内のフィルムコミッション活動の一層の活性化を図るため、「三重県フィルムコミッション研修会」を開催しました。平成25年9月26日（木）16時00分～17時30分 賓日館 「地域での映像制作に必要なもの、探し求めているもの」 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)⑥ 県ゆかりの著名人やみえの国観光大使によるPR	三重県ゆかりの著名人等の協力を得て、本県の観光魅力のPRに取り組みます。	<p>○ 知名度と情報発信力が高い8名の方を、3回に分け、新たにみえの国観光大使に委嘱しました。（H26.3.31現在 33名）その就任式では、新大使から三重県観光キャンペーンをはじめ、三重テラスや三重ブランドについて積極的に情報発信いただいた他、自身のブログやフェイスブックなどからも二次発信いただきました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 観光審議会、観光情報提供会などのイベント等への出席、県政だより等への寄稿など、貴重な意見を頂戴するとともに三重の魅力強くPRしていただきました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 経済界や芸能界など、みえの国観光大使の各活動分野において、三重の観光PRをしていただくため、各大使へは、名刺をはじめ、観光入込客数など観光の現状がわかる資料、三重県観光キャンペーンオフィシャルガイドブックや観光イベント情報誌等を提供しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	1(2)① 三重の観光営業拠点運営協議会を通じた地域企画型旅行商品の流通支援	市町等が参画する「三重の観光営業拠点運営協議会」を通じて、地域が主体となって企画した旅行商品の流通を支援することにより、県内での周遊性・滞在性を高めます。	<p>○ 中京圏のマスメディアと会員市町担当者が参加し、桜通りカフェを活用したメディアとのタイアップ企画の実施等、市町の観光情報を効果的に発信するためのメディアミーティングを実施しました。 (会員 15団体 松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、南伊勢町、熊野市、四日市市、桑名市、紀北町、伊賀市、いなべ市、鈴鹿市、三重県観光連盟、三重県) 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 本事業の成果である地域企画型旅行商品等の取組を、平成25年4月から実施している三重県観光キャンペーンと連動させ、本県への誘客促進に繋げるよう、県内各地域の魅力として発信しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 旅行雑誌「関西じゃらん (H25.5月号)」の中綴じ別冊「三重じゃらん・三重県まるごと体感!!BOOK」を作成し、配布しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 「なっ得スペシャル・伊勢志摩三重の旅」により、日本旅行で本県の旅行商品を販売しました。(H25.4~9) 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ カリスマ添乗員と巡る三重の旅(9/26~27)を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	1(2)② 観光圏整備事業の促進	観光地が連携して2泊3日以上滞在可能な観光圏の形成をめざした伊勢志摩及び東紀州の両地域における観光圏整備事業を促進します。	<p>○ 観光圏整備法に基づく基本方針の改正を受けた新観光圏への移行に向け、伊勢志摩観光コンベンション機構と連携し、観光圏整備事業を一年間延長し、検討しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 遷宮後も継続可能な強いブランドイメージを作り出し、「ここしかない・ここでしか体験できない」旅行商品を造成し、伊勢神宮のみに頼らない誘客を展開するため、国(観光庁)が実施する、地域の特色ある観光資源の商品化に向けた支援制度「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」を通じた旅行商品の素材となる体験プログラムと見学資源の発掘等に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 東紀州地域観光圏整備計画に基づき進行管理を行う東紀州地域振興公社に対し支援を行いました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	1(2)③ 他府県等との広域連携	「吉野・高野・熊野の国」をテーマとする各種イベントの開催、「中部広域観光推進協議会」による広域観光ルートの設定をはじめ、他府県等との広域連携の取組を進めます。	<p>○ 島根県とは、伊勢神宮と出雲大社の遷宮を共通テーマに、メディアやエージェント向け観光情報説明会への相互乗り入れ（8回）、首都圏での遷宮記念連続講座やオープンカレッジの開催（17回）、中京圏のアンテナショップやシンポジウム等での共同PR、観光PR映像の制作等を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 奈良県や島根県等とは、古事記・日本書紀を共通テーマに、首都圏におけるシンポジウム、出版物の表彰等（3回）、首都圏のアンテナショップでのパネル展を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 11月9日に滋賀県と「式年遷宮記念 滋賀・三重観光フォーラム in 多賀大社」を開催し、三重県と滋賀県の両知事はじめ、亀山市長、いなべ市長、伊賀市長、甲賀市長、東近江市長、多賀町長からの観光振興の取組の紹介を通じ、今後の情報発信や誘客促進について積極的な意見交換を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 中部広域観光推進協議会が行う「昇龍道」ミッションやハイレベルミッションへの参加、「旅フェア2013」への出展等を通じて、中部各県との連携を深めました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 島根県、奈良県と連携し、「伊勢・出雲・飛鳥研究の最前線」と題し、総合文化センターにおいてシンポジウムを開催しました。（12/14 200人）また、奈良県、福井県の県立美術館と本県の所蔵作品の交換展示を行いました。 【環境生活部文化振興課】</p> <p>○ 奈良県、島根県の首都圏営業拠点・アンテナショップが日本橋に隣接することから、日本橋を起点として、日本橋神話プロジェクト（講座（5回）、出雲と伊勢へのフィールドワーク、シンポジウム）、パネル展、地域イベントへの参加、プレゼントキャンペーン等を行いました。さらに、イオン幕張新都心店での三重県フェアにて、三県PRイベント等を開催しました。 ・日本橋・京橋まつり（H25.10.26～10.27） ・三重県フェア（H26.2.20～2.23） ・三館共通プレゼントキャンペーン（H26.2.20～3.16） 【雇用経済部三重県営業本部担当課】</p> <p>○ 三重県、奈良県、和歌山県の三県からなる「吉野・高野・熊野の国」事業実行委員会において、連携しながら事業を行い、世界遺産登録10周年を迎える世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の知名度向上、集客増加を図りました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	1(2)④ 各地域における広域連携	「北伊勢広域観光推進協議会」、「(社)伊勢志摩観光コンベンション機構」、「東紀州観光まちづくり公社」等、各地域における広域連携の取組を支援します。	<p>○ 北伊勢広域観光推進協議会について、三重県観光キャンペーン推進協議会北勢地域部会の取組の一環として参画するとともに、花と食の回廊スタンプラリーに対し連携して情報発信等に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 伊勢志摩地域の中核的観光推進組織である(公社)伊勢志摩観光コンベンション機構に参画し、観光情報の発信や誘客促進などを実施しました。 1) テレビ・ラジオ番組やパンフレット、県内外で開催されるイベント等における情報発信(観光PR) 2) シャトルバスの運行支援や着地型旅行企画商品の造成等の誘客促進 3) フィルムコミッション活動を通じた、伊勢志摩の魅力発信 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 伊勢神宮の「第62回神宮式年遷宮」を迎えて注目を集めた伊勢志摩地域において、伊勢、鳥羽、志摩など域内を周遊してもらうために、伊勢志摩地域3市3町と連携し、さまざまな行事やイベントを開催するなど、伊勢志摩地域の誘客促進を図るエリアキャンペーン「せんぐう旅博 ～日本人の旅 伊勢志摩～」を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 東紀州地域の魅力を発信するために、市町等多様な主体と連携し地域の資源や魅力を生かした事業を展開したり、商談会等への出展支援や通販事業者へのセールスにより、消費者ニーズの把握や販路拡大につながるなど観光振興、産業振興等の面で地域コーディネーターとしての役割を担う、東紀州地域振興公社に対して支援しました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p> <p>《4(3)①再掲》</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、玉城町、度会町、南伊勢町が連携して行う取組に対して支援しました。 ・サニーロード沿線マップ「快適・伊勢志摩めぐり サニーロードの旅」を作製し、高速SA(土山、御在所、安濃)等で配布するとともに、3町合同の産直市「サニー市」を平成25年12月から計4回開催しました。 ・情報発信拠点として「城(ぐすく)」(玉城町)の整備を行い、沿道にサニーロード周知のための案内看板を設置しました。 【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	1(3)① 県外学校の教育旅行の誘致	「伊勢志摩学生団体誘致委員会」と連携し、首都圏の中学校を訪問するとともに、体験学習発表会を開催する等、首都圏からの修学旅行の誘致活動を進めます。また、阪神なんば線や新名神高速道路の開通に伴い、本県へのアクセスが向上した関西圏西部の小学校を訪問し、同地域からの誘致にも取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊勢志摩学生団体誘致委員会、三重県東京事務所および大阪事務所との協働により、首都圏（東京都、川崎市、藤沢市）の中学校 156校および関西圏（神戸市、西宮市、尼崎市、芦屋市）の小学校 257校を訪問し、修学旅行の誘致活動を展開しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 神戸市において、学校関係者、旅行会社等を対象とした「伊勢志摩修学旅行体験学習会」を開催しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	1(3)② 県内学校の教育旅行による活用	県内及び近隣府県の小中学校担当者等を対象として、海や山での体験、工場見学といったさまざまな体験メニューを掲載した「三重県体験学習ガイドブック」等を活用して、教育旅行の目的地としての本県をPRします。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の小中学校 566校及び県内市町教育委員会に対し、「三重県体験学習ガイドブック」を配布することにより、三重の教育旅行を紹介しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 県内小中学校教務担当者会議において、資料配布を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)① トップセールス、ミッション派遣	トップセールスをはじめ、現地関係者・キーパーソンに直接働きかけるミッション派遣等を、海外の有望市場を対象として実施することにより、本県の認知度を向上させます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成25年8月に知事を団長としたミッション団をブラジルへ派遣し、観光を含め、産業、物産など総合的に三重県をPRしたほか、観光説明会を行いました。また、同様に10月にはミッション団を台湾へ派遣し、知事が台湾観光局長、台湾観光協会会長らと会談しトップレベルでの関係をさらに強化しました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)② 世界に誇る県内観光資源の発信	伊勢神宮、真珠、忍者、松阪牛など、本県が世界に誇る観光資源を活用し、海外に対して本県を強く印象づけるブランドイメージを形成するとともに、強力に発信していきます。	<p>○ 世界に誇れる優れた観光資源「忍者（NINJA）」をテーマに、他地域のモデルとなる新しい取組を構築することで、地域の観光産業を活性化し、三重県観光の持続的な発展につなげていくことを目的として、平成24年8月30日に「伊賀流忍者観光推進協議会」を設立しました。伊賀流忍者をキーにホームページやロゴマークの製作など、伊賀・名張両地域を一体的に発信していくための基盤づくりに取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 観光庁が実施する、地域の特色ある観光資源の商品化に向けた支援制度「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」に伊賀流忍者観光推進協議会として応募し、平成25年3月に「リアル忍者育成ツーリズム～日本中の忍者ファンと創るみんなの忍者の町！～」が選定されました。旅行商品造成に向けたモニターツアー（7月20日～21日19名参加、12月14日～15日27名参加）を実施するとともに、メディアや旅行会社等が参加するイベント「タビカレ学園祭」において、忍者ツアー企画のPR及び手裏剣打ち体験等を通じ、伊賀流忍者のPRを行いました。（2月1日～2日 東京ビッグサイト） 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 古くから女性が素潜りにより自然と共生しながら漁をする海女漁業並びに海女に関する資源を貴重な地域資源と位置づけ、ユネスコ無形文化遺産登録を目指し、海女漁業の継続、海女文化の振興及び海女文化による観光振興を図ることを目的とする「海女振興協議会」を通じ、海女サポート&ガイド・ボランティア養成講座、御潜神事再現イベント、海外プレス海女密着ツアー、国内外の海女との交流、海女文化シンポジウム、海女紹介ガイドブック（英語版）の作成など、海女の情報発信、文化振興に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)③ ファムトリップ対応、海外への魅力発信	海外のメディア、旅行関係者等による県内視察・取材の招聘・受入に積極的に取り組むほか、当該メディアやインターネット等を活用して、本県の魅力を直接、海外に伝えます。	<p>○ 海外メディアや旅行関係者等による県内視察については、17件（前年度31件）の受入れを行いました。また、インターネット等を活用した情報発信については、三重県観光の外国語ホームページで615,452件（前年度481,731件）のアクセスがあったほか、フェイスブック、ツイッター等で2,771件（前年度2,509件）の発信を行い、本県の魅力発信に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)④ 海外向け旅行モデルコースの設定及び提案	国・地域別のマーケティングを通じて、県内各地の温泉と伊勢海老等のグルメを組み合わせたコース、アウトレットモール、おかげ横丁等でのショッピングや食べ歩きを中心としたコース、熊野古道伊勢路をはじめ歴史的・文化的景観、建造物等を巡るコースなど、三重県らしさを前面に押し出した具体的なモデルコースを設定し、海外の旅行会社に対して提案する等の働きかけを行います。	○ ミッション派遣や現地でのセールスコール（旅行会社訪問）などで、三重県の魅力ある具体的なモデルコースを提案したほか、旅行会社の県内視察を通じて、観光資源を体験していただきました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)⑤ 中国・河南省との観光・交流	中国河南省との「観光・交流の推進に関する協定書(2011年8月)」に基づき、観光・交流の拡大を推進します。	○ 平成25年度は、外的要因による状況が改善せず、中国河南省との観光関係の事業を実施することができませんでした。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)⑥ JNTO現地事務所及び駐日外国公館等との連携による情報発信等	世界各地に展開している日本政府観光局(JNTO)の現地事務所、駐日外国公館等との協力関係を深め、誘客につなげるための情報交換、海外に向けた情報発信に取り組みます。	○ 世界各国に事務所を持つJNTOと協力して、現地での情報発信及びプロモーションの際に有効な情報提供を受けて事業を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)① ビジット・ジャパン事業、国やJNTOとの連携	国のビジット・ジャパン事業の活用等、国及び日本政府観光局(JNTO)と連携した各種プロモーションに取り組みます。	<p>○ 「みえ国際展開に関する基本方針」に基づきターゲット市場を選定してプロモーションに取り組むとともに、JNTO等が実施するイベントやメディア招請の機会を積極的に活用し、本県の観光資源の露出拡大及び誘客促進を図りました。</p> <p>(台湾) 昇龍道プロジェクトと連携し、旅行博出展等により台湾の個人旅行者を対象に、近鉄レールパス、近鉄レールパス・ワイドを活用した誘致プロモーションを展開しました。</p> <p>中部国際空港、中部国際空港利用促進協議会、NEXCO 中日本と連携し、レンタカーを活用した商品造成に向け、台湾旅行会社や台湾メディアを招請しました。</p> <p>愛知県、岐阜県、滋賀県、名古屋市と連携し、台湾からの教育旅行誘致に向け現地説明会や台湾教育関係者招請を行いました。</p> <p>(香港) 和歌山県との連携のもと、レンタカーを使用する個人旅行者誘致に特化した現地セールスコール(旅行会社訪問)やメディア招請を行いました。</p> <p>(フランス) 和歌山県、奈良県、大阪観光コンベンション協会、新関西国際空港株式会社他との連携のもと、歴史・文化を軸に旅行博出展による現地への直接情報発信やメディア招請を実施しました。</p> <p>(欧米) 遷宮が重なる島根県と連携のもと、神宮や日本人の精神文化等を紹介する映像コンテンツを作成しテレビ放映を通じて欧米への情報発信を行いました。</p> <p>(タイ) 和歌山県、奈良県等と連携し、旅行博出展や、愛知県、中部国際空港等と連携しメディア招請等を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)② 広域団体との連携	「中部広域観光推進協議会」、「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」、「関西広域連合」等の広域団体との連携により、ミッション派遣や海外観光展をはじめとするプロモーションの実施等、スケールメリットを生かした誘客活動を展開します。	<p>○ 各広域団体が主催する商談会や招請事業に県内観光事業者とともに参加し、三重県の観光をPRしました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p> <p>○ 海外におけるプロモーション事業においても、一体となって観光情報を発信することにより誘客促進を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)③ 中部及び関西の結節点を活用した広域観光ルートの開発	中部及び関西の両圏域の結節点に位置する地理的特性等を生かした広域観光ルートを、他府県等と連携して開発します。	<p>《2(2)①一部再掲》</p> <p>○ 「みえ国際展開に関する基本方針」に基づきターゲット市場を決定してプロモーションに取り組むとともに、JNTO等が実施するイベントやメディア招請の機会を積極的に活用し、本県の観光資源の露出拡大及び誘客促進を図りました。</p> <p>(香港)</p> <p>和歌山県との連携のもと、レンタカーを使用する個人旅行客誘致に特化した現地セールスコール(旅行会社訪問)やメディア招請を行いました。</p> <p>(フランス)</p> <p>和歌山県、奈良県、大阪観光コンベンション協会、新関西国際空港株式会社他との連携のもと、歴史・文化を軸に観光展出展による現地への直接情報発信やメディア招請を実施しました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)④ 中部及び関西国際空港における外国人観光旅行者への情報提供	中部及び関西国際空港において、関係自治体、団体等と共同して観光案内所を運営することにより、案内業務のほか外国語パンフレットの掲出等、外国人観光旅行者に対する情報提供を行います。	<p>○ 中部国際空港および関西国際空港それぞれの観光案内所に外国語パンフレットを提供することにより三重県の観光をPRし、両空港から三重県への誘客を図りました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)① 外国人向け観光情報発信	外国語ホームページ、外国語パンフレットの充実を図ります。特に、ホームページにおいては、外国人観光旅行者が県内で移動・滞在する際に、役立つ情報の提供(交通アクセスや観光案内所等)に取り組みます。	<p>○ 外国語のホームページとフェイスブックなどのSNSとの連携とともに、SNSでの積極的な情報発信を行い(2,771件(昨年度2,509件))、実際に旅行する外国人旅行者にとって利便性が高いものになりました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)② 多言語表記等による案内表示	県内の主要な観光地、交通結節点での多言語表記等、案内表示の設置を促進します。	<p>○ 観光施設等が外国語の案内表示を作成する際の翻訳サポートを行いました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p> <p>○ 外国人観光客が訪れるみえ旅案内所等に指さし案内や、無料公衆無線LAN(Free WiFi-Mie)の整備(平成25年度までに73カ所整備)を行いました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p> <p>○ 県管理道路の案内標識については、道路標識設置基準等に基づき、ローマ字併用表記による設置に取り組みました。</p> <p>【県土整備部道路管理課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)③ 三重県外国人観光客誘致促進協議会を核とした視察・取材の受け入れ	県、市町、観光事業者等が参画する「三重県外国人観光客誘致促進協議会」を核として、海外のメディア、旅行関係者等による県内視察・取材の受け入れに取り組みます。	○ 三重県外国人観光客誘致促進協議会を核として、タイやマレーシア、インドネシア、香港、フランスの旅行会社の県内視察や、タイのメディアの取材を受け入れました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)④ 外客受入研修会、受入対応力向上	外客受入研修会の開催等を通じて、外国人観光旅行者の受入対応力の向上を図ります。	○ 「2013 日台観光サミット in 三重」開催前のタイミングをとらえ、志摩市と連携し、日本政府観光局の台湾シニアスペシャリストを講師に迎え、志摩市にて「日台観光セミナー」を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】 ○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。「熊野古道の世界遺産への歩みと魅力」をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、本年度より新たに、「お伊勢さん現地見学会」として伊勢市で現地研修を含むセミナーを2回開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約210名の参加をいただきました。 第1回：平成25年6月18日（火） プラザ洞津 「お客さまを楽しませ、自分も疲れない接客術」 第2回：平成26年2月13日（木） 三重県総合文化センター 「熊野古道の世界遺産への歩みと歴史文化の魅力」 【現地見学会】 第1回：平成25年7月11日（木） 伊勢トピア、外宮、せんぐう館、内宮 「伊勢神宮、式年遷宮から学ぶこと」 第2回：平成25年7月16日（火） 現地研修会 第1回と同じ 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
3 観光産業の高付加価値化	(1) 観光産業の育成・振興	3(1)① 観光分野の新事業創出や既存事業高度化等を行う中小企業への支援	観光分野における新事業の創出や既存事業の高度化、観光分野への新たな進出等に取り組む中小企業に対し、関係団体と連携した総合的な支援を行います。	○ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」については、36件を採択し、「みえ農工商連携推進ファンド」については8件を採択し、その取組を支援しました。 【雇用経済部サービス産業振興課、地域資源活用課】 ○ 旅館等の観光関連業種の生産性向上のため、鳥羽商工会議所と連携し、5月29、30日に企業訪問及び勉強会を開催したところ、56人の参加がありました。 その後は、勉強会を受講した1事業者が、生産性向上に実績のあるQCサークル活動に興味を示したことから、1件のマッチングを実現しました。 【雇用経済部サービス産業振興課】 ○ 平成25年7月に産学官の連携により「みえICTを活用した産業活性化推進協議会」が設立され、その下部組織のひとつとして観光ワーキンググループ（WG）を設けました。2回の観光WGを通して、観光情報などのオープンデータを活用した新事業展開、新産業創出に向けた議論が進められ、平成26年度に、参画する民間事業者によって実証事業が行われることになりました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)② 地域資源 を活用し たコミュ ニティビ ジネスに よる経済 活動への 支援	観光やまちづく り等の地域課題 の解決を図るた め、地域の資源を 活用したコミュ ニティビジネス による持続可能 な経済活動の取 組を支援します。	<p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ 地域をよりよくしようとする活動を自発的に行うパートナーグループの活動を支援するため、専門家派遣を、22件、延べ60回実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ パートナーグループによる地域づくりを進めるため、必要な初期投資にかかる経費を対象に、パートナーグループに対して8件、市町が参画する実行委員会に対して1件(名張市・伊賀市・津市合同)財政的支援を実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《3(1)①再掲》</p> <p>○ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」については、36件を採択し、「みえ農商工連携推進ファンド」については8件を採択し、その取組を支援しました。 【雇用経済部サービス産業振興課、地域資源活用課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)③ 観光に関 する統計 調査の実 施	市町、観光事業者、観光関係団体等、関係者の協力を得ながら、観光に関する統計調査や動向調査を継続的に実施します。また、それらの結果については、関係者との共有を進め、地域における観光の魅力づくり・人づくりのほか、観光事業者による「おもてなし」の向上等サービス改善に向けた活用へとつなげていきます。	<p>○ 観光レクリエーション入込客数調査では、県内29市町から報告のあった各施設の入込客数をまとめ、「平成24年観光レクリエーション入込客数推計書」を発行しました。また、ゴールデンウィーク・夏休み・お正月には、観光客の動向を把握するため、県内の主要施設の入込客数調査を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 「観光客実態調査」では、四半期ごとに県内の15施設で行った調査の結果を、三重県全体・地域別に集計し、報告書にまとめました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 平成24年度に実施した「観光地域経済調査」について、観光庁の調査結果とあわせて集計・分析を行い、結果を活用できるよう検討を進めました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 平成24年度に実施した「修学旅行誘致意向実態調査」の調査結果について、報告書を関係者に配布するとともに、伊勢志摩学生団体誘致委員会とも連携して、今後の修学旅行誘致方策の検討に活用しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)④ 中小企業 の資金調 達に係る 支援	経済環境等の変化に応じて、観光事業者を含む中小企業の資金調達の円滑化の支援を行うことにより、経営基盤の強化を図ります。	<p>○ 三重県中小企業融資制度において、「みえ産業振興戦略関連資金」を新設し、県の観光人材育成カリキュラムを受講し修了証を受けた旅館・ホテル業を営む中小企業が行う施設のバリアフリー化を対象にした設備資金を新たに融資対象としました。なお、小規模事業資金における旅館・ホテル業の利用残高は2件ありました。 【雇用経済部サービス産業振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)① グリー ン・ツー リズムの推 進	本県の農山漁村の魅力を大都市圏等に向け広く情報発信するとともに、自然、文化、農林水産物等、農山漁村地域の豊かな地域資源を生かしたグリーン・ツーリズムの推進により、都市と農山漁村の交流・共生を促進します。	<p>○ 農山漁村の豊かな地域資源を生かした「いなかビジネス」の創出と質的向上に向け、交流アドバイザー(講師)を12回派遣しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 農山漁村の資源と都市のニーズを結んで農村起業を促進するコーディネーターを養成する講座(6回連続)を開催しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ いなかビジネスの取組は140件となり、組織間のネットワーク化を図るため、第2回三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会を開催しました(平成25年10月22～23日)。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 県内外のイベント等で、冊子「いなか旅のススメ2012」の配布によるPRやHPを通じた三重の農山漁村の魅力を情報発信し、農山漁村(里)を応援してくれる三重の里ファン倶楽部会員数は6,500名(平成26年3月末現在)となりました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 都市住民等にグリーン・ツーリズムや農山漁村の魅力を情報発信するため、冊子「いなか旅のススメ2014」を作成しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 子ども・学生のグループを受け入れようとする6地域へ、モデル的に体制整備に要する経費を支援し、県内での受入体制の整備を図りました。県内の子ども・学生のグループの受入組織は、10地域に増えました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 子ども・学生のグループを受け入れた際に、農山漁業体験などを指導する体験指導者の養成講座を、3泊4日の日程で津市神原町を会場に開催しました。24名の参加があり、全員がカリキュラムを終了後、指導者として認定されました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 農山漁村地域においてふるさと体験活動の受け皿となる農山漁業体験民宿の開業促進及び支援を図るため、2月に大紀町で「農山漁業体験民宿セミナー」を開催しました。79名の参加があり、農山漁業体験民宿の開業に向けた留意点や、既に開業されている人からの事例報告などを聞くことで、開業に向けた理解促進、意欲向上を図ることができました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 子どもふるさと体験を行っている受入地域協議会のPR活動の一環として、受入地域協議会のインストラクターとともに、小・中学校等の学校長会においてPR活動を行いました。 【地域連携部地域支援課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)② エコツー リズムの 普及促進	環境と観光をつ なげるエコツー リズムの普及促 進を図るため、さ まざまな主体と の連携・協力によ り、同ツーリズム に取り組む団体 が活動しやすい 環境整備を行う 等、持続可能な観 光地づくりを進 めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物多様性の保全を目的として、自主的に里地里山保全活動を展開する団体について、認定を行いました。（新規認定団体数：1団体） 【農林水産部みどり共生推進課】 ○ 自然観察会等の行事案内を、HPで情報提供するとともに、年間176回の行事により自然とふれあい親しむ機会を提供しました。 【農林水産部みどり共生推進課】 ○ ボランティアが構成員となっている「モリメイト」の活用により参加型の事業運営を行いました。 【農林水産部みどり共生推進課】 ○ ニューツーリズム促進事業の中で、伊勢湾に浮かぶ答志島を舞台に、離島固有の自然・文化資源を活かし、島の食や文化とともにアウトドアイベントやノルディックウォーキング、ヨガなどを活用した新たな体験型のメニューを造成するなど、観光誘客の促進を図りました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)③ 産業観光 の促進	最先端ものづく り産業、地域の伝 統産業・地場産業 等の生産現場の 見学や生産体験 等、産業観光の促 進を通じて、地域 における新たな 観光資源の創出 を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 愛知県や岐阜県と連携し、7月から9月にかけて3県にある205か所の産業観光施設を回っていただく「あいち・ぎふ・みえ産業観光スタンプラリー2013」を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 人や環境、社会に配慮した商品を作っている会社・店やそれらに関わる人の思い、完成に至るストーリーなどを、現場での見学や体験を通じて知ることを目指す「エシカルツーリズム」に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)④ ヘルスツ ーリズム の促進	病気やけがの治 療・予防のほか、 温泉浴による療 養、森林浴による リラクセス効果、 菜膳等の食による 健康維持、ウォ ーキング等の運 動による体力増 強等、心と体の健 康増進・回復を 目的としたヘル スツーリズムの 取組を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ○ みえライフイノベーション総合特区における MieLIP 尾鷲の取組として、三重大学、尾鷲市等関係機関とともに県内旅行者によるヘルスツーリズム開発を支援するとともに、開催案内をホームページや機関誌にて紹介しました。 【健康福祉部ライフイノベーション課】
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)⑤ 医療観光 の促進	先進的な医療サ ービスの提供と、 本県の豊富な観 光資源、地域の食 材等を組み合わせ た医療観光の 受け入れに取り 組む事業者や医 療機関等との連 携を通じて、本 県の観光魅力を PRします。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光庁が主宰する医療観光プロモーション推進連絡会からの情報収集に努めるとともに、特に需要が高いと見込まれる中国からの医療観光市場について、必要に応じて県内事業者等に情報提供を行いました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)⑥ スポーツ ツーリス ムの促進	旅先で観光ととも にスポーツを 楽しむ、あるいは スポーツ大会への 参加とともに 旅を楽しむなど、 スポーツを通じた 新たな魅力の 創出、スポーツを 核とした交流機 会の増大を図り ます。	<p>○ 市町のスポーツイベントの誘致、開催に向けての組織づくりや運営の支援のため、日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）の協力を得て、鳥羽市、志摩市、菰野町、紀北町にアドバイザーを派遣しました。 【地域連携部スポーツ推進局スポーツ推進課】</p> <p>○ 日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）を活用した情報収集及び情報発信を推進しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 鈴鹿サーキット及び鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会に参画し、モータースポーツによる魅力創出を図りました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 県営サンアリーナにおいて、トレイルランニングレースの実施や、近隣の旅館街と提携した合宿パックの提案を行うなど、スポーツを目的とした旅行者の誘致に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	バリアフ リー観光 の推進		<p>○ 6月21日、伊勢市において開催されたバリアフリー観光全国フォーラム伊勢大会において、三重県知事が「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ ニューツーリズム促進事業を活用し、バリアフリー観光の取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー観光の基盤構築 三重県全域をカバーする相談窓口を開設 相談数 751 件（うち伊勢志摩以外 51 件） バリアフリー観光調査の実施 78 件（うちHPへ掲載情報 31 件） 式年遷宮による増客への対応強化 参拝サポートボランティア 26 件 バリアフリー観光化アドバイス 18 件 ・バリアフリー観光研修会の開催 11月8日 マリーナ河芸（津市） 参加者 28 名 1月23日 いせ市民活動センター（伊勢市） 参加者 70 名 ・バリアフリー観光モニターツアーの実施 高齢者向け 11月17日 椿大神社・アクアイグニス他 参加者 33 名 障がい者向け 個人旅行 大紀町日本一のふるさと村他 1月27～28日（1組限定） 名古屋発1泊2日 3月9日（4名） 伊勢市駅発着（1日）2月24日（16名） 3月3日（8名） 伊勢市駅発着（半日）2月25日（午前催行中止、午後9名） 3月4日（午前7名、午後18名） <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 県内・県外の観光関係者や福祉関係者をはじめとするバリアフリー観光に関心のある方々を対象に、「みえの旅バリアフリー観光研修会」を開催しました。</p> <p>平成26年1月23日（木） 10:00～12:00 現地視察（伊勢市駅周辺） 13:00～16:00 「みえの旅バリアフリー観光研修会」 （いせ市民活動センター） 内容：民間企業、市町、NPOの取組紹介およびバネティスアクション</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 観光施設へのおもいやり駐車場の設置促進やバリアフリー調査の支援などを、事業者及びUD団体等と連携して実施することにより、三重県のバリアフリー観光を推進しました。</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部地域福祉課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)① 三重県営 業本部で の三重ブ ランドの 魅力PR	「三重県営業本部」において、食を目的とする観光につながるよう、「三重ブランド」などの県産品の魅力をPRします。	<p>○ 「三重ブランド」の各種PRツールを作成して、三重テラスにおける情報発信と連携したPRや百五DC等民間事業者とのタイアップなど様々な場面を活用してPRを行いました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 三重ブランド認定希望者の中から、新たなブランドとなりえる品目及び事業者を外部有識者の意見を踏まえて選定し、事業者と相談のうえ支援計画を策定し、計画に沿った支援を実施しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 神宮式年遷宮を活かした、平成おかげ参りプロジェクト事業を全国の15百貨店と協力して、観光物産展を開催し、全国からの誘客と県産品の販路拡大に取り組みました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 海外への販路拡大事業については、①台湾で三重県物産展を開催し、県産品の販路拡大と海外からの誘客につとめました。②また、タイでも三重県物産展を開催し、海外からの誘客と県産品の輸出促進を進めました。③シンガポールでは、日本製品のショールームを活用した展示販売を行い、県産品のアセアン諸国への販路開拓を進めました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)② みえフー ドイノー ーション を通じた 商品開発 及び県産 品認知度 向上	県産品が広く認知され、競争力を強化できるよう、産学官ネットワーク等により、食に関する新たな商品やサービスを生み出すしくみである「みえフードイノベーション」の創設をとおして、健康など多様なニーズに対応する商品開発や、「三重ブランド」をはじめとする県産品の認知度の向上に取り組めます。	<p>○ みえフードイノベーション・ネットワークが平成24年5月25日に発足し、会員数は302事業者となりました(平成26年3月末現在)。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ みえフードイノベーションプロジェクトにおいて、8プロジェクトを創出し、8品目を開発し、合計で37プロジェクト、28商品となりました(平成26年3月末現在)。そのうち、三重県観光キャンペーンとのコラボ商品開発プロジェクトでは、「みえのソフトクリーム」など3商品を開発、販売しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 特徴ある優れた産品を選定し、県が首都圏、大都市圏などに発信する「みえセレクション」を35品選定しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 商品力・営業力向上研修として、フードコミュニケーションプロジェクト(FCP)の概要等を学ぶオープンセミナーを1回、商品づくりや効果的な商談に向けた取組などを学ぶ連続研修を6回開催しました。オープンセミナーには県内の食品関連事業者42事業者、連続研修には12事業者が参加しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)③ みえ地物 一番、地産 地消情報 の提供	県内で生産される農林水産物について、「みえ地物一番」に登録する食品産業事業者との連携により、旬、産地、レシピ等の地産地消にかかる情報を広く提供し、本県ならではの食の魅力づくりを支援します。	<p>○ 県内の小売店や各種イベント等で、結びの神、いちご、南紀みかん、鹿肉、みえの安心食材等のPRを223回開催し、プレゼントキャンペーンや県産品に係るアンケート調査を実施しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 民間企業との「みえ地物一番」キャンペーンの推進などを通じ、三重ブランドをはじめ6次産業化等による県産品について、認知度の向上とホームページ等を通じた情報発信を行いました。 ・企業との連携による食育等のPR回数：11回 ・SNS活用情報発信（フェイスブック、ツイッター等）：更新回数546回 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 民間団体との協働により食育・地産地消の啓発活動として、関連情報の収集と県民向け情報発信を行いました。 ・ホームページによる情報発信：116回 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 第19回全国俳句募集事業において、事業の案内に合わせて三重ブランドやイベント情報を紹介するとともに、応募者プレゼントや県内外のイベントでの特産品PRにより、三重県および三重の特産品の認知度向上に努めました。 【環境生活部文化振興課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)④ 「みえ地 域コミュニ ティ応援 ファンド」、 「みえ農 商工連携 推進ファ ンド」	地域の資源を活用した新たなビジネスの創出に向け、「みえ地域コミュニティ応援ファンド」、「みえ農商工連携推進ファンド」等を活用して新商品、新サービスの開発や販路開拓を促進します。	<p>《3(1)①再掲》</p> <p>○ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」については、36件を採択し、「みえ農商工連携推進ファンド」については8件を採択し、その取組を支援しました。 【雇用経済部サービス産業振興課、地域資源活用課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)⑤ 伝統産業 や地場産 業の活性 化	地域の風土や文化と密接に結びついている伝統産業や地場産業の活性化を図るため、知恵を生かした製品や技術の高度化、高付加価値化によるブランド化を進めます。	<p>○ 伝統産業・地場産業の活性化のため、事業者や産地組合等を訪問して棚卸しと再発見の場づくりを行い、それぞれの産地・事業者の強み・弱みを分析するとともに、課題や今後の方向性の共有を行いました。 【雇用経済部地域資源活用課】</p> <p>○ 事業者とデザイナーの連携による新商品開発・販路開拓支援（12件）など、大都市圏等を対象とした地域資源の販路拡大とブランド化に係る取組を実施しました。 【雇用経済部地域資源活用課】</p> <p>○ 和のスタイルの提案による海外展開、新しいライフスタイルを提案する展示会への出展、後継者育成、若手技術者による首都圏（首都圏営業拠点等）での展示会開催などの取組を支援するため、補助金を3社に交付し、事業者による海外への情報発信等につなげました。 【雇用経済部地域資源活用課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)① 「おもてなし」の向上	観光事業者をはじめ、県民の主体的な参画も得ながら、地域全体で「おもてなし」向上に取り組み、観光旅行者の満足度を高め、リピーターの確保につなげていきます。	<p>《2(3)④再掲》</p> <p>○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。「熊野古道の世界遺産への歩みと魅力」をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、本年度より新たに、「お伊勢さん現地見学会」として伊勢市で現地研修を含むセミナーを2回開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約210名の参加をいただきました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)② 観光キーパーソンの育成	観光事業者等を対象とした学びの場を設け、経営者や有識者を招いた実践的な研修やフィールドワーク等を通じ、地域の観光振興の核となる観光キーパーソンを育成します。	<p>《2(3)④再掲》</p> <p>○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。「熊野古道の世界遺産への歩みと魅力」をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、本年度より新たに、「お伊勢さん現地見学会」として伊勢市で現地研修を含むセミナーを2回開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約210名の参加をいただきました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)③ おもてなしの心あふれる観光ボランティアガイドの育成	県内のボランティアガイド団体で構成される「おもてなし三重観光ボランティアガイド協議会」の活動を支援し、おもてなしの心あふれるガイドの育成、技術向上、ネットワーク化を促進します。	<p>○ 三重県観光連盟を通じて、ボランティアガイド間の連携、組織強化を図るため、ボランティアガイド連絡協議会の支援を実施するとともに、研修会、地域交流会等を開催しました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)④ 講演会等の開催を通じた観光人材の育成、男女共同参画	市町、県民、観光事業者、観光関係団体等、観光振興に取り組むさまざまな主体を対象とした、講演会、研修会、シンポジウム等の開催を通じて、知識の習得、専門性の向上等に取り組みます。また、その際には、男女共同参画等の視点も踏まえ、性別にかかわらず、地域で活躍することのできる観光人材の育成を図っていきます。	<p>《1(1)⑤再掲》</p> <p>○ 県内のフィルムコミッション活動の一層の活性化を図るため、「三重県フィルムコミッション研修会」を開催しました。 平成25年9月26日(木)16時00分～17時30分 賓日館 「地域での映像制作に必要なもの、探し求めているもの」 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《2(3)④再掲》</p> <p>○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。「熊野古道の世界遺産への歩みと魅力」をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、本年度より新たに、「お伊勢さん現地見学会」として伊勢市で現地研修を含むセミナーを2回開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約210名の参加をいただきました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 県職員に、三重の観光についての知識を得てその魅力を発信してもらうため、ブラッシュアップ研修「三重を知る」『式年遷宮と三重のええとこ』を4回開催しました。 平成25年6月25日 尾鷲庁舎 平成25年6月27日 勤労者福祉会館 平成25年7月2日 勤労者福祉会 平成25年7月4日 伊賀庁舎 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課、観光政策課】</p> <p>《3(2)再掲》</p> <p>○ 県内・県外の観光関係者や福祉関係者をはじめとするバリアフリー観光に関心のある方々を対象に、「みえの旅バリアフリー観光研修会」を開催しました。 平成26年1月23日(木) 10:00～12:00 現地視察(伊勢市駅周辺) 13:00～16:00 「みえの旅バリアフリー観光研修会」 (いせ市民活動センター) 内容：民間企業、市町、NPOの取組紹介およびパネディスカッション 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑤ 美し国おこし・三重	「美し国おこし・三重」の取組により、地域づくりのキーパーソンとなる人材の育成を図るほか、専門家派遣や交流会の開催等を通じて、主体的に地域をよりよくしようとする団体である「パートナーグループ」の活動を支援するための環境を整備します。	<p>○ 地域をよりよくする活動を自発的に行うパートナーグループに170グループが新たに登録し、681グループが登録しました(平成25年度末)。そのうち、観光に関する活動を行うパートナーグループは273団体になります。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>○ 地域をよりよくしようとする活動を自発的に行うパートナーグループの活動を支援するため、専門家派遣を、22件、延べ60回実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>○ パートナーグループによる地域づくりを進めるため、必要な初期投資にかかる経費を対象に、パートナーグループに対して8件、市町が参画する実行委員会に対して1件(名張市・伊賀市・津市合同)財政的支援を実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>○ 平成26年の「県民力拡大プロジェクト」のプレイベントとして、9月～12月に「プレ縁(えん)博(ばく)みえ」を県内各地で実施、また、12月には「プレ三重県民大縁会(だいえんかい)」を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プレ縁(えん)博(ばく)みえ」： パートナーグループ等が企画・実施したイベント数 317件 ・「プレ三重県民大縁会(だいえんかい)」： パートナーグループのブース出展数 77グループ <p>【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑥ 東紀州地域振興公社(旧「東紀州観光まちづくり公社」)、熊野古道語り部の育成	熊野古道伊勢路の価値や魅力を多くの観光旅行者に伝えるため、「東紀州観光まちづくり公社」が主催する養成講座等を通じて、熊野古道語り部の育成や技術力の向上に取り組みます。	<p>○ 熊野古道伊勢路を守り伝えるために、熊野古道保存会の古道保全活動、企業の社会貢献活動と連携した清掃ウォーク等の開催、人材育成のための熊野古道語り部養成講座やレベルアップ講座、英語語り部勉強会などの活動や、みえ熊野学研究会と連携した熊野文化講座や地域巡回講座の開催などの活動に対し、東紀州地域振興公社を通じて支援しました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑦ 宮川流域エコミュージアム、宮川流域案内人の育成	宮川流域エコミュージアムにおける宮川流域案内人の育成、資質向上に向けた支援を行います。	<p>○ 「宮川流域案内人」の登録は約300名(平成26年3月末現在)となっており、平成18年4月に設立された「宮川流域案内人の会」を中心に主体的に活動しています。流域案内人の会による企画・協力事業は、平成25年度76件開催され、3,828名が参加しました。 【地域連携部地域支援課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑧ 農林漁業体験等の指導者研修	農林漁業体験等さまざまな体験活動の指導者研修等の開催により、県内各地のグリーン・ツーリズムの取組を支援します。	<p>《3(2)①再掲》</p> <p>○ 農山漁村の豊かな地域資源を生かした「いなかビジネス」の創出と質的向上に向け、交流アドバイザー(講師)を12回派遣しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>《3(2)①再掲》</p> <p>○ 農山漁村の資源と都市のニーズを結んで農村起業を促進するコーディネーターを養成する講座(6回連続)を開催しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>《3(2)①再掲》</p> <p>○ 子ども・学生のグループを受け入れた際に、農林漁業体験などを指導する体験指導者の養成講座を、3泊4日の日程で津市榊原町を会場に開催しました。24名の参加があり、全員がカリキュラムを終了後、指導者として認定されました。 【地域連携部地域支援課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(2) 県民の観光行動の促進	4(2)① 観光パンフレットの掲出	県内の公共施設、駅、大型商業施設、コンビニエンスストア等、多くの県民が利用する施設において、季刊紙「観光三重」等観光パンフレットの掲出を通じて、旬の観光情報を提供します。	<p>○ (公社)三重県観光連盟により、本県の旬の情報を提供するために、季刊紙「観光三重」(年4回、97万部)等を発行し、県内の公共施設、駅、大型商業施設、コンビニエンスストア等、多くの県民が利用する施設で掲出しました。また、県内外のサービスエリアや観光物産展等で配布しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(2) 県民の観光行動の促進	4(2)② 郷土教育の推進	「三重の文化(郷土の文化編)」等の教材を活用しながら、郷土を愛する心や地域に貢献する意欲を育む郷土教育を推進します。	<p>○ 教材「三重の文化」を活用した中学校の割合は88.8%であり(平成25年度)、昨年度末と比べて26.9ポイント上昇しました。 【教育委員会事務局小中学校教育課】</p> <p>○ 授業実践の交流や成果普及を図るため、中学校の社会科、技術科、家庭科、道徳、「総合的な学習」の時間における教材「三重の文化」を活用した授業構成案を作成しました。 【教育委員会事務局小中学校教育課】</p> <p>○ 郷土学習のさらなる充実を目的に、教材「三重の文化」の題材をもとにした「ふるさと三重かるた」を平成26年3月に作成し、公立小中学校及び公立幼稚園に配付しました。「ふるさと三重かるた」は平成27年度までの3年間で、計画的に配付する予定です。 【教育委員会事務局小中学校教育課】</p> <p>○ 学びと交流を通じて、人づくりに貢献するため、三重県総合博物館の内覧会やワークショップを開催するとともに、「伊勢をめぐる人・モノ・文化の交流」と題したシンポジウムを総合文化センターで開催しました。(10/6 119人) 【環境生活部文化振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(2) 県民の観光行動の促進	4(2)③ 歴史的・文化的資産の活用による人材育成・地域づくり	県民が、地域の文化財の価値に気づき、大切に守り伝え、積極的に活用できる環境づくりを進めるとともに、歴史的・文化的資産を生かした人づくりや地域づくりの取組を促進します。	<p>○ 地域と協働しながら、地域に残る歴史的文化的資産を活用した街道ウォーク、まちかど博物館合同展示会等（22件）を実施しました。 【環境生活部文化振興課】</p> <p>○ 平成22・23年度に実施した海女習俗基礎調査の結果をもとに、海女文化の文化財としての価値を明らかにするため、平成24年度に引き続き鳥羽志摩地域の海女漁操業地12ヶ所で詳細調査を実施し、成果を報告書としてまとめました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 海女文化について県民へ情報発信を行うため、展示会を県内3ヶ所（鳥羽マリンターミナル、県庁県民ホール、志摩市阿児アリーナ）で開催するとともに、平成25年3月21日には報告会を開催し20名の参加を得ました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 海女習俗詳細調査の結果をもとに、県無形民俗文化財指定をしました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 地域の貴重な文化財を見直し、文化財の活用によるまちづくりを推進するため、活用事業と保存事業をあわせた33事業に補助金を交付しました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 文化財を活用した積極的な取組を紹介した『実績報告集』を刊行・配布しました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)① 観光旅行者の周遊性・滞在性の向上	観光事業者、観光関係団体等との連携により、観光旅行者の周遊性・滞在性を高める取組を進めます。	<p>《1(1)①再掲》</p> <p>○ 官民が連携して「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」の充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みえ旅パスポート発給数 205,976件(3月末現在) ・みえ旅案内所の設置 68施設 ⇒ 87施設 ・みえ旅おもてなし施設の募集 640施設 ⇒ 820施設 <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《1(1)①再掲》</p> <p>○ オフィシャルガイドブックやエリアパンフレットを半年ごとにテーマを更新して発行し、県内各地の旬の情報発信やキャンペーン企画の情報提供を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《1(1)①再掲》</p> <p>○ 首都圏等大都市圏においては、三重テラス、関西事務所、名古屋桜通りカフェと連携して、雑誌媒体を活用した女性、シニア等に狙いを絞った情報発信やメディア等を対象にした企画提案、情報発信を行うとともに、地方では、百貨店の物産展などでPRを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア掲載件数 159件(新聞115回、雑誌25回、TV19回) <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《1(1)①再掲》</p> <p>○ 紀勢自動車道の延伸に併せて、定額料金で高速道路が乗り放題となる「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを、中日本高速道路株式会社と連携し企画実施しました。(実施期間：平成25年3月24日～9月30日)</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、玉城町、度会町、南伊勢町が連携して行う取組に対して支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サニーロード沿線マップ「快適・伊勢志摩めぐり サニーロードの旅」を作製し、高速SA(土山、御在所、安濃)等で配布するとともに、3町合同の産直市「サニー市」を平成25年12月から計4回開催しました。 ・情報発信拠点として「城(ぐすく)」(玉城町)の整備を行い、沿道にサニーロード周知のための案内看板を設置しました。 <p style="text-align: right;">【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、大台町、大紀町、紀北町が連携して行う取組に対して支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R42号沿線の体験情報誌「旬感通信(しゅんかんつうしん)」を作製し、高速SA(土山、御在所、安濃)等で配布するとともに、各町の広報誌に折り込みました。 ・R42号の情報発信拠点である道の駅「奥伊勢おおい」「ふるさとプラザもみじ館」「紀伊長島マンボウ」「道の駅海山」を整備するとともに、各町別のR42号沿線魅力発信マップ等を作製しました。 <p style="text-align: right;">【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)② 地域における観光の魅力づくりへの支援	「鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会」等、地域が主体となった取組への参画を通じて、地域における観光の魅力づくりを支援します。	<p>○ 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会のおもてなし部会に参画し、県内の宿泊施設に対しF1サポート宿泊施設への協力を依頼しました。</p> <p>また前夜祭及びグランプリ当日、会場にて、F1専用スタンプによるみえ旅パスポートの臨時発給を行う等、キャンペーンと連動した取組を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 県内外に対して、鈴鹿F1日本グランプリの開催を、ラジオ、テレビ、広報誌、新聞等県で活用できる媒体により情報発信しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)③ 世界遺産熊野古道の保存、活用に向けた関係機関との連携	平成26(2014)年7月の熊野古道世界遺産登録10周年も視野に入れ、奈良県、和歌山県及び関係市町等との連携により、その保存とさらなる活用に向けた取組を進めます。	<p>《1(2)③再掲》</p> <p>○ 三重県、奈良県、和歌山県の三県からなる「吉野・高野・熊野の国」事業実行委員会において、連携しながら事業を行い、世界遺産登録10周年を迎える世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の知名度向上、集客増加を図りました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、東紀州地域の市町が連携して行う取組に対し支援しました。</p> <p>・熊野古道世界遺産登録10周年キャンペーンのロゴマーク、キャッチコピーを作成し、これらを活用したガイドブック、ホームページ、ポスター、チラシ等により東紀州地域の魅力ある資源をきめ細かく情報発信したり、各市町が実施する熊野古道世界遺産登録10周年事業をPRすることで、東紀州全体の魅力の発信力を高め、市町への一層の誘客を促進しました。 【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課、東紀州振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)④ 海女や忍者等を活用した三重県観光モデルの構築	日本においても希少で独自性を持ち、本県が世界に誇りをもって情報発信することができる、海女や忍者等の観光資源を活用して、三重県観光の新たなモデル構築に向けた取組を進めます。	<p>《2(1)②再掲》</p> <p>○ 世界に誇れる優れた観光資源「忍者(NINJA)」をテーマに、他地域のモデルとなる新しい取組を構築することで、地域の観光産業を活性化し、三重県観光の持続的な発展につなげていくことを目的として、平成24年8月30日に「伊賀流忍者観光推進協議会」を設立しました。伊賀流忍者をキーにホームページやロゴマークの製作など、伊賀・名張両地域を一体的に発信していくための基盤づくりに取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《2(1)②再掲》</p> <p>○ 観光庁が実施する、地域の特色ある観光資源の商品化に向けた支援制度「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」に伊賀流忍者観光推進協議会として応募し、平成25年3月に「リアル忍者育成ツーリズム～日本中の忍者ファンと創るみんなの忍者の町！～」が選定されました。旅行商品造成に向けたモニターツアー(7月20日～21日19名参加、12月14日～15日27名参加)を実施するとともに、メディアや旅行会社等が参加するイベント「タビカレ学園祭」において、忍者ツアー企画のPR及び手裏剣打ち体験等を通じ、伊賀流忍者のPRを行いました。(2月1日～2日 東京ビッグサイト) 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《2(1)②再掲》</p> <p>○ 古くから女性が素潜りにより自然と共生しながら漁をする海女漁業並びに海女に関する資源を貴重な地域資源と位置づけ、ユネスコ無形文化遺産登録を目指し、海女漁業の継続、海女文化の振興及び海女文化による観光振興を図ることを目的とする「海女振興協議会」を通じ、海女サポート&ガイド・ボランティア養成講座、御潜神事再現イベント、海外プレス海女密着ツアー、国内外の海女との交流、海女文化シンポジウム、海女紹介ガイドブック(英語版)の作成など、海女の情報発信、文化振興に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)⑤ 「美し国おこし・三重」を通じた地域づくり活動への支援	「美し国おこし・三重」の取組等を通じて、地域が主体的に取り組む地域づくりの活動を支援し、地域の魅力や価値を高めます。	<p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ 地域をよりよくする活動を自発的に行うパートナーグループに170グループが新たに登録し、681グループが登録しました(平成25年度末)。そのうち、観光に関する活動を行うパートナーグループは273団体になります。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ 地域をよりよくしようとする活動を自発的に行うパートナーグループの活動を支援するため、専門家派遣を、22件、延べ60回実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ パートナーグループによる地域づくりを進めるため、必要な初期投資にかかる経費を対象に、パートナーグループに対して8件、市町が参画する実行委員会に対して1件(名張市・伊賀市・津市合同)財政的支援を実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ 平成26年の「県民力拡大プロジェクト」のプレイベントとして、9月～12月に「プレ縁(えん)博(ばく)みえ」を県内各地で実施、また、12月には「プレ三重県民大縁会(だいえんかい)」を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プレ縁(えん)博(ばく)みえ」： パートナーグループ等が企画・実施したイベント数 317件 ・「プレ三重県民大縁会(だいえんかい)」： パートナーグループのブース出展数 77グループ <p>【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)⑥ 環境に配慮したクリーンな観光地づくり	県内の主要な観光地で、地域や企業などのさまざまな主体が共に取り組む「電気自動車(EV)等で観光できる環境づくり」と「EV等を地域で使う環境づくり」を通じて、「環境に配慮したクリーンな観光地」の見える化を進めます。	<p>○ 低炭素なまちづくりを進めるため、伊勢市における電気自動車(EV)等を活用した低炭素社会モデル事業において、平成24年度に策定した協議会の取組や各主体の役割等を定めた行動計画(おかげさまAction)に基づき、小型電気自動車の導入などその環境整備を実施しました。 【環境生活部地球温暖化対策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)⑦ 市町や地域の広域団体による観光振興計画策定	市町や地域の広域団体が、当該地域の観光振興の指針となる計画（観光振興計画等）を策定し、地域のコーディネーターとなって戦略的に観光振興を進めることができるよう、必要な情報、ノウハウの提供等による支援を行います。	<p>○ 名張市観光戦略推進会議に委員として参画し、「名張市観光戦略の方針（案）」の審議等を通じ、観光戦略の策定に向けて助言を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 桑名市の観光懇話会に参与として参画し、桑名市観光振興プランに掲げる戦略の推進に向け、助言しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 名張市エコツーリズム全体構想の認定申請に際し、意見を提出しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 平成26年3月31日現在、県内29市町のうち、10市3町、計13市町が観光振興計画を策定しています（津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、鳥羽市、いなべ市、伊賀市、菰野町、明和町及び紀北町）。また、広域団体として2団体が観光振興計画を策定しています（北伊勢広域観光推進協議会、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構）。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 伊勢志摩観光コンベンション機構に参画し、平成26年4月から始まる新しい「伊勢志摩観光振興プラン」の計画策定にあたり、助言しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)① 景観に配慮したまちづくりの促進	市町や県民等による主体的な景観づくりを進めるため、景観づくりに関する情報提供や知識の普及、専門家派遣等を行うとともに、「三重県景観計画」に基づく届出制度の運用等を通じて、景観に配慮した建築物の建築等の促進を図ります。	<p>○ 県民や事業者、市町とともに、美しい景観づくりを県内全域で展開していくため、次のとおり市町の景観づくりの取組を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町と住民が地域の景観づくりを主体的に検討する景観交流会や市町の景観形成に関わる事業への景観アドバイザーの派遣。（7回） ・景観行政団体との連携及び景観行政団体になっていない市町の景観行政団体化に向けた取組支援として、「景観行政団体等連携担当者会議」を開催。（1回） ・市町による景観に関するシンポジウムの開催支援（津市1回、志摩市1回） <p>【県土整備部景観まちづくり課】</p> <p>○ 世界遺産を有する東紀州地域における景観保全のため、次のとおり取組を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産熊野川から見える地域の景観保全を図ることを目的とした「熊野川流域景観計画」の策定に向け、地域住民、地元市町から意見をいただき、さらに和歌山県、新宮市との協議などを経て素案を作成。 ・世界遺産・熊野古道を有する紀南地域において、地元市町と連携し、三重県を代表する特に重要な景観及びその景観を眺望できる場所を選定し、保全手法についての分析を実施。 <p>【県土整備部景観まちづくり課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)② 街路整備や電線類の地中化	都市環境を保全し、その機能を高めるため、街路の整備や電線類の地中化に向けた取組を進めます。	<p>○ 電線共同溝の整備を3箇所で行いました。駅周辺等の都市計画道路において、電線類の地中化により、歩行空間の整備を行い道路のバリアフリー化を進め、安全で快適な魅力ある道づくりを目指して事業を推進しました。 【県土整備部都市政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)③ 日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会	「日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会」が策定した活動計画をもとに、熊野古道を軸とする東紀州を中心とした地域において、関係市町や団体が連携を図りながら、地域の資源を活用したまちづくり、快適で美しい観光・交流空間づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界遺産・熊野古道を活用した地域づくり、景観づくりを推進するため、日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会を2回開催し、協議会の構成員である関係団体及び市町間の交流を深めました。 【県土整備部景観まちづくり課】 ○ 地域資源の調査研究（熊野古道及びその周辺地域の自然・歴史・文化等の地域資源の調査、研究）、情報の集積（調査研究した情報を取りまとめ、検索しやすいよう整理分類する）、データベースの作成（収集した情報を県民にわかりやすく提供できるようデータベース化）を行いました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)④ 潤いのある水辺空間の創出	河川が本来有している多様性に富んだ自然環境と河川景観を保全・整備するとともに、また、海浜を保全・復元することにより、潤いのある水辺空間の創出を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三滝川において、魚の棲みかとなる魚巣ブロックを使用した護岸等を整備することにより、水辺空間の創出や河川的环境保全に努めました。また、大内山川において、景観アドバイザー制度を活用した設計を行いました。 【県土整備部河川・砂防課】 ○ 海岸の整備にあたっては、周辺の自然環境や景観に配慮した人工リーフ、緩傾斜護岸、養浜等を整備し、海浜の利用を増進するための親水空間の創出を進めました。 【県土整備部港湾・海岸課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)⑤ 自然公園や自然遊歩道等の整備及び維持管理	国立公園、国定公園、県立自然公園において豊かな自然とのふれあいを図るため、公園や自然遊歩道等の施設整備、安全確保のための維持管理を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登茂山園地、青山高原ふるさと公園、藤原岳坂本休憩所公衆トイレ、大杉谷登山センター、鳥羽ビジターセンター、東海自然歩道及び近畿自然歩道について、市町や関係団体に施設の維持管理業務やパトロール業務を委託しました。【農林水産部みどり共生推進課】 ○ 老朽化している下記施設の修繕を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・近畿自然歩道御座漁港公衆トイレ（志摩市） ・近畿自然歩道公衆便所（津市） ○ 老朽化により損傷した以下の4施設を改修しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・東海自然歩道 3箇所（菰野町1箇所・鈴鹿国定公園内）（亀山市・公園区域外）（津市1箇所・室生赤目青山国定公園内） ・近畿自然歩道 1箇所（津市1箇所・公園区域外） ○ 平成23年度に被災した以下の2施設を復旧しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・近畿自然歩道 1箇所（津市1箇所・赤目一志峡県立自然公園内） ・近畿自然歩道 1箇所（紀北町1箇所・公園区域外） ○ 紀伊半島大水害で被災した飛雪ノ滝野営場の災害復旧工事について、平成24年度工事の一部を平成25年度に繰越して実施していましたが、全ての復旧工事が完了しました。【農林水産部みどり共生推進課】 ○ 大杉谷登山歩道災害復旧工事について、平成24年度に引き続き実施し、全ての復旧工事が完了しました。【農林水産部みどり共生推進課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)① ユニバーサルデザインに配慮した施設整備	市町や関係機関等との連携・協力のもと、ユニバーサルデザインに配慮された施設整備を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例に基づき公共的施設の設計段階で事前協議を行い、完成した公共的施設に対して適合証を交付しました。【健康福祉部地域福祉課】 ○ 「三重おもいやり駐車場利用証制度」に基づく「おもいやり駐車場」の適正利用がはかられるよう各種啓発活動を実施しました。その結果、平成25年度末には、利用証の交付者数は19,061人、「おもいやり駐車場」の登録届出数は1,889施設、3,781区画となりました。【健康福祉部地域福祉課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)② バリアフリー化の促進	各事業者や関係団体等の理解・協力を得ながら、交通機関、観光施設、宿泊施設等におけるバリアフリー化を促進します。	<p>○ 鉄道事業者、国、地元市と事業化に向けた調整を進めた結果、近鉄桑名駅、JR四日市駅のバリアフリー化事業に対し、補助金の交付を決定しました。</p> <p>さらに、近鉄伊勢若松駅のバリアフリー化について、平成26年度での事業化に向け、鉄道事業者、国、地元市と調整を進めました。 【健康福祉部地域福祉課】</p> <p>○ 平成23年度から24年度にかけての2年間、(N)伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの提案による「日本一のバリアフリー観光県づくり」事業を、「NPO等からの協働事業提案」として採択し、協創で取組を行い、平成25年4月22日に最終報告会を開催しました。 【環境生活部男女共同参画・NPO課】</p> <p>《3(2)再掲》</p> <p>○ 6月21日、伊勢市において開催されたバリアフリー観光全国フォーラム伊勢大会において、三重県知事が「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>《3(2)再掲》</p> <p>○ ニューツーリズム促進事業を活用し、バリアフリー観光の取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー観光の基盤構築 三重県全域をカバーする相談窓口を開設 談数751件うち伊勢志摩以外51件) バリアフリー観光調査の実施(78件うちHPへ掲載情報31件) 式年遷宮による増客への対応強化 参拝サポートボランティア 26件 バリアフリー観光化アドバイス 18件 ・バリアフリー観光研修会の開催 11月8日 マリーナ河芸(津市) 参加者28名 1月23日 いせ市民活動センター(伊勢市) 参加者70名 ・バリアフリー観光モニターツアーの実施 高齢者向け 11月17日 椿大神社・アクアイグニス他 参加者33名 障がい者向け 個人旅行 大紀町日本一のふるさと村他 1月27～28日(1組限定) 名古屋発1泊2日 3月9日(4名) 伊勢市駅発着(1日) 2月24日(16名) 3月3日(8名) 伊勢市駅発着(半日) 2月25日(午前催行中止、午後9名) 3月4日(午前7名、午後18名) 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)③ 熊野古道を歩く観光旅行者の利便性向上	熊野古道の沿線地域において、まちなか案内所を設置するとともに、サイン整備を進める等、古道を歩く観光旅行者の利便性の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊野古道の価値や魅力を地域自ら紹介する「熊野古道まちなか案内所」を、熊野市の「鬼ヶ城センター」に設置しました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】 ○ 熊野古道伊勢路を歩く人々のニーズに対応し、より多くの人々に来訪していただけるよう、サイン整備等の環境づくりに取り組みました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】 ○ 熊野古道まちなか案内所や自動車回送サービス、熊野古道マップ等の情報発信を行うなど旅行者の利便性向上につながる活動に取り組みました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】 ○ 東紀州地域の観光、産業に関する旬の情報を提供し、熊野古道をはじめとした地域資源の認知度向上を図り、来訪者増や商品購入につなげていくため、総合情報誌「みよら東紀州」を年4回発行しました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)④ 多言語表記等による案内表示	県内の主要な観光地、交通結節点での多言語表記等、案内表示の設置を促進します。 (再掲)	<p>《2(3)②再掲》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県管理道路の案内標識については、道路標識設置基準等に基づき、ローマ字併用表記による設置に取り組みました。 【県土整備部道路管理課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5(3)① 危機管理情報の収集及び伝達体制づくり	地震、津波、集中豪雨等による自然災害の情報やテロ等の有事関連情報の迅速な収集と伝達体制づくりを促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災情報提供プラットフォーム(①「防災みえ.jp」ホームページ、②「防災みえ.jp」の防災情報メール配信サービス、③情報を収集する「防災情報システム」)により、迅速な情報の収集と伝達を行いました。 【防災対策部防災対策総務課】 ○ 気象庁の特別警報の新設に伴い、平成25年9月、ホームページへの特別警報の表及びメール配信での特別警報を追加しました。 【防災対策部防災対策総務課】 ○ 県民等の早期避難行動を促すため、平成26年3月、ホームページの県管理河川水位情報及び県観測雨量情報について、水位及び雨量の変化傾向がわかるように表示を改修しました。 【防災対策部防災対策総務課】 ○ 県民等への情報提供項目として、平成26年3月、防災情報メール配信サービスに「PM2.5注意喚起情報」を追加しました。 【防災対策部防災対策総務課】 ○ 県民等が必要とする情報を提供できるよう、平成26年3月、防災情報メール配信の県内震度の区分に県内震度3以上を追加しました。 【防災対策部防災対策総務課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心確保	5(3)② 避難訓練等への支援	地域との連携による避難訓練等を支援し、的確な避難誘導が行える体制づくりを促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成25年9月1日に実施した三重県・熊野市・御浜町・紀宝町総合防災訓練において、紀宝町ウミガメ公園から地域の避難場所である下り場集落センターに観光客の避難誘導を行う訓練を実施しました。 【防災対策部災害対策課】 ○ 住民一人ひとりの津波避難計画である「Myまっぷラン」を中核とした「津波避難に関する三重県モデル」の地域への水平展開について、地域防災総合事務所・地域活性化局と連携し、実践的なワークショップなど地域の取組への実地支援や財政支援を行った結果、「Myまっぷラン」を活用した取組が、6市町17地区で行われました。また、市町独自の手法による津波避難計画の作成の取組も、4市町27地区で行われました。 【防災対策部防災企画・地域支援課】 ○ 男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営や、避難所における障がい者、外国人への配慮について、平成24年度に改定した「三重県避難所運営マニュアル策定指針」及び基本モデルを用いた避難所単位の運営マニュアル策定の取組の水平展開についても同様に、実地支援や財政支援を行った結果、7市町15地区で取組が行われました。 【防災対策部防災企画・地域支援課】 ○ 観光事業者用防災啓発パンフレットを用いて、三重県観光連盟、三重県旅館ホテル生活衛生同業組合の各総会において、観光事業者等を対象とした啓発活動を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】 ○ 三重県新地震・津波対策行動計画の選択集中テーマの一つである「命が危ぶまれる観光客対策」として、観光事業者、観光関係団体を対象とした防災面からの人材育成、観光客への対応を想定した避難訓練の実施、主要観光地の防災対策等に係る課題検討の場づくりを取りまとめました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心確保	5(3)③ H A C C P (ハ CCP)、自主衛生管理システムの導入促進	食品関連事業者に対して、HACCPの考え方に基づく、食品の製造・加工工程への自主衛生管理システムの導入を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食品の安全確保のためには、事業者自らが行う、自主的な衛生管理が重要であるため、HACCP手法を導入した衛生管理プログラムからなる「三重県食品の自主衛生管理認定制度」の推進を実施(新規取組開始4施設、取組施設総数163施設)しました。 【健康福祉部食品安全課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心確保	5(3)④ 食品表示の監視指導	食品表示に関して、食品関連事業者に対して監視及び指導を行うとともに、普及・啓発を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食品衛生法及びJAS法等に基づく食品表示について、消費者及び事業者への普及啓発を進めるとともに、営業施設の立入検査の際に確認指導を実施しました(2,078事業者)。 【健康福祉部食品安全課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心確保	5(3)⑤ 県管理の道路・河川・海岸等施設の維持管理	県管理の道路・河川・海岸等の施設について、安全・安心確保に向けて計画的な維持管理を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化する道路施設が年々増加する中、県管理道路の適正な機能を確保するために、従来からの道路パトロール等による管理に加え、トンネル等の詳細な点検を実施し、安全性・快適性の確保のため道路施設の補修や補強などを実施しました。 また、式年遷宮により来訪者の増加が見込まれたことから、周辺主要幹線道路等の修繕を行いました。 【県土整備部道路管理課】 ○ 河川における水門、樋門及び排水機場の点検や修繕を行い、災害の未然防止に努めました。 【県土整備部流域管理課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心確保	5(3)⑥ 飲食店及び旅館事業者等からの暴力団排除	「三重県暴力団排除条例」に基づく普及・啓発を進め、飲食店及び旅館事業者等からの暴力団排除に取り組みます。	<p>○ 「三重県暴力団排除条例」の広報啓発活動 各種会合等において、条例等に関する講話を行い、飲食店及び旅館事業者等を含む事業者へ条例の周知を図りました。 【警察本部刑事部組織犯罪対策課】</p> <p>○ 「不当要求拒否宣言の街」の設立 飲食店事業者による暴力団排除団体である不当要求拒否宣言の街の設立を推進し、鳥羽市旅館業不当要求拒否宣言の街を設立しました。 【警察本部刑事部組織犯罪対策課】</p> <p>○ 利用規約等への暴力団排除条項導入に対する働き掛け あらゆる機会を通じて、宿泊事業者等の施設管理者に対し、暴力団排除条項の導入を働きかけました。 【警察本部刑事部組織犯罪対策課】</p> <p>○ 暴力団による県民生活や事業活動に対する不当な要求を排除し、安全で平穏な生活の確保と健全な社会経済活動の発展の基盤となる暴力団排除の気運を醸成することを目的に、三重交通路線バス広告、県内3地区（北勢・中勢・南勢）7台の広報看板を作成して掲出しました。 上記広報に加え、個人にも幅広く啓発を行うため、暴力団排除をアピールする啓発物品（ボールペン）を作成して配布しました。 【環境生活部交通安全・消費生活課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心確保	5(3) 不特定多数が利用する大規模建築物の耐震化		<p>○ 耐震改修促進法の改正に伴い、耐震診断が義務化されたホテル、旅館等の不特定多数が利用する大規模建築物の耐震化を促進するため、耐震診断の補助制度を12月補正予算で創設しました。 【県土整備部建築開発課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)① 道路ネットワークの形成推進	新名神高速道路、東海環状自動車道、紀勢自動車道、熊野尾鷲道路等の高規格幹線道路、北勢バイパス、中勢バイパス等の直轄国道の整備の促進等、交流や連携を広げる道路ネットワークの形成を推進します。	<p>○ 災害時の復旧・復興を担うとともに、式年遷宮を契機とした県内外との交流連携の促進に向け、平成25年度供用開始予定となっていた紀勢自動車道、熊野尾鷲道路、紀宝バイパス、中勢バイパスや第二伊勢道路の整備を進めるとともに、これらに合わせて供用するアクセス道路の整備などを推進しました。 また、交通需要への対応と交通渋滞の解消および、災害時の緊急輸送や代替ルートの確保に向け、新名神高速道路、東海環状自動車道、北勢バイパスや中勢バイパス等の整備を図るとともに、これらと合わせ幹線道路を形成する県管理道路の整備を推進しました。 （平成25年度主な供用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀宝バイパス：L=1.6km（H25年6月16日） ・一般国道167号 第二伊勢道路：L=7.6km（H25年9月14日） ・熊野尾鷲道路 ：L=13.6km（三木里～熊野大泊間）（H25年9月29日） ・（主）賀田港中山線（賀田インター線） ：L=0.8km（H25年9月29日他） ・（一）新鹿佐渡線（新鹿インター線） ：L=0.7km（H25年9月29日他） ・中勢バイパス ：L=1.8km（5工区（鈴鹿（稲生）工区））（H26年3月23日） ・紀勢自動車道：L=15.1km（紀伊長島～海山間）（H26年3月30日） <p>【県土整備部道路企画課、新名神推進課、道路建設課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成25年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)②	関係団体と連携し、中部及び関西国際空港の利用促進や国際拠点空港としての機能充実、中部国際空港への海上アクセスの利用促進、リニア中央新幹線の早期全線整備や県内駅設置、鳥羽伊良湖航路の維持、広域的な鉄道路線の利便性向上等に向けた取組を進めます。	<p>○ 「鳥羽伊良湖航路活性化協議会（事務局：鳥羽市、田原市）」にて利用促進策を協議し、フェリーを活用した旅行商品の造成や、航路誘導看板の設置等のPR事業を実施しました。その結果、目標としている総旅客数35万人を達成できました。 【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 本県と中部国際空港を結ぶ海上アクセスについて、津市、松阪市及び海上アクセス運航事業者等と連携して、PRポスターの配布及び情報誌の改訂版作成などに取り組み、海上アクセスをPRしました。 【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 本県と関係市町等で構成する「リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会」にて建設促進大会を開催し、JR東海や国等に対して、全線同時開業、県内ルートや駅位置の早期公表等について要望活動を行いました。 【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 名古屋以西の中間駅設置予定県である奈良県や両県の経済団体と連携・協力し、三重・奈良ルートによる全線同時開業に向けた建設促進会議を開催するとともに、国等への要望活動を行いました。 【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 東京・大阪間の沿線都府県で構成する「リニア中央新幹線建設促進期成同盟会」にて、国やJR東海等関係機関に対して東京・大阪間の全線早期整備に向けた国等への働きかけを行いました。 【地域連携部交通政策課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)③	名古屋駅と熊野古道の各峠を結ぶシャトルバスを関係市町と共同運行し、観光旅行者に対して安定的な動線を提供します。また、周遊バス、レンタカー、観光タクシー等が組み込まれた旅行商品等を通じて、二次交通対策の充実を図ります。	<p>○ 東紀州関係市町（尾鷲市、熊野市、紀北町）と連携してシャトルバスを運行しました。また、シャトルバスのさらなる利用促進のため、関係市町等との定期的な協議を行い、シャトルバス利用者を対象としたお買物クーポンの実施や、企画ツアーへの協力、発地場所である名古屋駅において、PRチラシの配布などを行いました。 平成25年度のシャトルバスの利用人数は3,824人（前年度比121.9%）でした。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)④	伊勢神宮内宮周辺で年末年始やゴールデンウィーク時に発生する渋滞の解消に向け、「伊勢地域観光交通対策協議会」が行うパーク&バスライドへの支援	<p>○ 伊勢地域観光交通対策協議会及び同部会に参加し、事務局の伊勢市をはじめ、国、県、周辺市、民間、住民等の関係機関等と、年末年始やゴールデンウィークに加えて、お白石持ち行事、遷宮などを控え、パーク&バスライドやその情報発信等の交通対策に関する検討を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ このほか、伊勢交通円滑化検討会WGに参加し、事務局の三重河川国道事務所をはじめ、国、県、伊勢市及び関係団体と、年末年始やゴールデンウィークのパーク&バスライドなどの交通対策に関する検討を行い、上記協議会・部会と連携した取組を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

5 推進体制の整備

(1) 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、市町や観光事業者等との役割分担を踏まえつつ、連携・協力しながら取り組んでいます。

平成 25 年度は、「三重県観光キャンペーン推進協議会」において、官民一体で「三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～」を展開するとともに、協議会の中の「地域部会」においては、参加機関が一体となって地域の魅力や特色を活用した事業の実施に取り組みました。

また、県の推進体制としては、引き続き「三重県観光審議会」に観光振興について調査・審議いただくとともに、庁内の関係部局等との緊密な連携と調整を行う場として「三重県観光振興担当者会議」を設置し、計画の進行管理のほか、情報共有や課題検討を行いました。

さらに、多様な団体が参画する（公社）三重県観光連盟、伊勢志摩観光コンベンション機構、東紀州地域振興公社等とも、継続的に連携・協力しながら取組を進めました。

(2) 観光統計の整備

平成 25 年度は、三重県観光客実態調査について、調査員説明会における調査の趣旨説明の実施や、調査票の見直し、調査の注意点の調査員への徹底などにより、調査精度の向上に取り組みました。

また、前年の「観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」を見直し、よりわかりやすくする工夫として、新たに結果概要を作成しました。

さらに、多くの方が容易に観光統計のデータを入手できるよう、観光レクリエーション入込客数をホームページに掲載しました。

(3) 計画の進行管理

平成 24 年度の年次報告書を取りまとめ、三重県議会への報告や三重県観光審議会における審議などを通じて、今後の観光施策の方向性を確認しつつ、適切な進捗管理に努めました。

